

福岡大学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年報

令和2年度（2020）

F.U.

Sports and Health Science

福岡大学スポーツ科学部

第6号

福岡大学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年報

令和2年度（2020）

福岡大学スポーツ科学部

第6号

目次

挨拶	1
活動内容	
1 学部および研究科の三つのポリシー	
(1) スポーツ科学部	3
(2) スポーツ健康科学研究科	7
2 活動年譜	9
3 教員組織および担当者	11
4 入試状況、学生数および卒業生数、出張講義	
(1) スポーツ科学部	14
(2) スポーツ健康科学研究科	17
5 教育活動	
(1) 入学前教育	18
(2) 新入生懇談会	18
(3) クラス面談・修学指導	19
(4) フレッシュマンセミナー授業方法	21
(5) ステップアップセミナー授業方法	25
(6) 学生の受講環境調査と遠隔授業方法	27
6 研究活動	
(1) スポーツ科学部	35
(2) スポーツ健康科学研究科	36
7 FD・SD 活動	37
(1) シラバス点検	
(2) 学外研修参加	
(3) ワークショップ、研修会の開催	
(4) 授業アンケート	

8	地域連携・社会貢献、高大連携	41
9	国際交流	44
10	教職課程	45
11	就職・進路	
	(1) スポーツ科学部	47
	(2) スポーツ健康科学研究科	48
12	広報推進	49
13	外部獲得資金実績	52
14	リスクマネジメント委員会	55
15	関連資料一覧	59

学部・研究科のさらなる前進へ

スポーツ科学部長 米沢 利広
スポーツ健康科学研究科長 川中 健太郎

スポーツ科学部とスポーツ健康科学研究科では、2015年度版から学部と研究科の年間活動を総括し、記録に残すとともに学内外にその成果を公表する目的で、2016年秋に「スポーツ科学部・スポーツ健康科学研究科年報」を創刊しました。本年報は、2020年度版（第6号）になります。学部・研究科教員の研究活動（研究業績）と社会活動、競技・指導活動は「スポーツ科学研究（大学研究紀要）」に、また現在学部として取り組んでいる教育プログラムの「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と「ココロとカラダのウェルネスプログラム」は別冊あるいはスポーツ科学部ホームページ上の電子ファイルとして詳細を掲載していますので、本年報（第6号）はこれら以外の内容になります。具体的には、目次をご覧ください。

スポーツ科学部は、1969年（昭和44年）体育学部体育学科として学生定員100名で創設されました。その後、学生定員増（臨時定員増を含め）を何度か経て現在の学生定員295名となっています。1998年（平成10年）スポーツ科学部への名称変更とともにスポーツ科学科と健康運動科学科の2学科へ改組転換し現在に至っています。2019年（平成31年＝令和元年）には、学部創設50周年を迎え、盛大に記念式典を行いました。2021年（令和3年）3月277名の卒業生を加えて総数11,944名を輩出しています。

スポーツ健康科学研究科は、1990年（平成2年）体育学研究科体育学専攻修士課程として6専修部門（体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチ学、健康運動学）を創設しました。2003年（平成15年）にスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻に改称し、現在6部門13専修となっています。また、2004年（平成16年）にはスポーツ健康科学専攻博士課程を2部門（健康運動科学、スポーツトレーニング科学）増設しました。したがって、修士課程（博士課程前期）は2020年（令和2年）に創設30周年を迎えました。2021年（令和3年）3月11名の修了生を加えて総数452名の修了生（修士課程409名、満期退学者を含む博士課程43名）、17名（2020年度は2名）の課程博士と2名の論文博士を輩出しています。

2013年（平成25年）12月から学部役職員の変更に伴う新体制がスタートし、“**学部の魅力づくり**”をテーマに、“**FUSS アクティブプラン（福岡大学スポーツ科学部推進計画）**”の名称で取り組んでいます。スポーツ・健康運動に関する分野において社会を先導する高い専門性と気概を持った人材の育成（教育面）に加えて、これを実現できる教育環境づくり（教育組織、FD・SD）、並びに教育や社会に資する研究環境の整備（研究面）を推進し、さらに近未来に向かって学部が独自に取り組む特別プロジェクトを推進することで、“**学部の魅力づくり**”の向上を目標としています。

2020年度（令和2年度）は、「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため4月の入学式が中止となり、緊急事態宣言の発令を受けて学部懇談会をはじめ学部祭、謝恩会など多くの行事が中止になりました。授業においても前期授業期間は対面授業からリモートによる遠隔授業となり、定

期試験も実施されませんでした。後期においても新型コロナウイルスは収束せず、一部の授業（スポーツ科学演習、卒業研究論文、コーチ法演習など）を除き、遠隔授業が継続しました。このような状況の中では、**FUSS アクティブプラン**を中心とした学部のさまざまな取り組みは、停滞することになってしまったことは大変残念です。このような状況でも教職員の努力により次のような活動が行われました。

- 1 高大連携及び附属高校委員会では、出張講義におけるオンラインオープンキャンパスを実施しました。また、附属若葉高校とは、サッカー部、ハンドボール部及び水泳部で強化の連携が行われています。
- 2 広報委員会では、昨年に引き続きタペストリーを作成し、第二記念会堂に掲示しました。
- 3 スポーツ振興・地域連携・社会貢献推進委員会では、ミズノ株式会社との間で受託研究が行われ、特別講演会には飯塚翔太氏を招聘することができました。UNIVAS 関係では、ステップアップセミナーにおいて、キャリア支援プログラムがリモートで実施されました。UNIVAS AWARDS においても信岡沙希重先生が表彰されるなど 3 部門で表彰を受けました。

また、大学院スポーツ健康科学研究科でも、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、2020年度に 9 回目を迎える予定であった釜山大学との大学院国際学術交流は中止となりました。しかし、新たにスポーツ健康科学研究科ホームページを立ち上げ、大学院における活動状況を学内外に精力的に発信しています。

「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため、2021 年 3 月の卒業式は学部ごとの卒業式となり、スポーツ科学部は第二記念会堂で学位記授与式を実施しました。また、研究科においては、1221 教室において学位記授与式を行いました。

一方、人事に関して、講師以上の採用はありませんが、新助教 5 名、新助手 4 名を含めて、専任教員（講師以上）31 名、特任教授 1 名、助教・助手 26 名、教育技術職員 4 名・事務職員 7 名の総勢 69 名で学生教育に取り組んでいます。

本学では、1996 年（平成 8 年）から大学基準協会の「大学評価マニュアル」に基づき、自己点検・評価を開始しました。その後、自己点検・評価の実施と結果公表の義務化に伴い 2000 年度（平成 12 年度）に第 2 回目の自己点検・評価を行いました。2004 年（平成 16 年）からは第三者機関（認証評価機関）による認証評価を 7 年に 1 回受けることが義務付けられ、本学では 2007 年度（平成 19 年度）に第 3 回目、2014 年度（平成 26 年度）に第 4 回目の自己点検・評価を行い、翌年“大学基準協会に適合”との認証評価を受けました。2015 年度（平成 27 年度）からは毎年自己点検・評価を行うことになり、第 5 回の認証評価に向け、本年報が学部基礎データ調書資料としても活用されています。

1 学部および研究科の人材養成の目的と三つのポリシー

(1) スポーツ科学部

●人材養成の目的

スポーツ科学部は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

○アドミッション・ポリシー

スポーツ科学部は人材養成の目的を達成するために、

1. スポーツを日常的に実践している人
2. スポーツや身体運動を対象に積極的に科学しようとする人
3. 競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上を目指す人
4. 体育教員、スポーツコーチ、インストラクター、健康運動指導士などスポーツや健康全般にかかわる職種を目指そうとする人の入学を求めています。

○カリキュラム・ポリシー

スポーツ科学部のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した人材を育成することを目的として編成されています。そのためのカリキュラムとして、1 年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1 年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む推奨コースを設定しています。さらに、実技科目や演習科目は、理論と実践を統合した教育を体系的に行うために、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。

スポーツ科学科は、自らが専門とするスポーツ種目の技能およびスポーツ全般にわたる科学的指導能力の向上を、また健康運動科学科は、健康運動・レクリエーションの科学的基礎知識に基づく実践・指導能力の習得をそれぞれねらいとし、各学科の特性にあったカリキュラムを編成しています。

○ディプロマ・ポリシー

スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. スポーツや運動全般の科学的指導能力を備えている。
2. 専門とするスポーツ・運動の高い技能と指導能力を備えている。
3. スポーツ・運動の医科学的知識に基づく卒業論文作成能力を備えている。
4. スポーツ・運動を通じて得られた社会や職業活動に必要なコミュニケーション能力、課題解決力、倫理的 思考力を備えている。
5. 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を身につけている。

■ スポーツ科学科 学位（教育）プログラム名：スポーツ科学

●人材養成の目的

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

スポーツ科学科 三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

❖養成する人材像・教育課程の特色

スポーツ科学科は、競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、スポーツ・運動に関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した4つのコースを用意しています。自身の競技力向上とアスリートやコーチを目指すためのアスリート・コーチコース、アスリートのサポートを担うためのトレーナーコース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応したスポーツ科学の在り方を探求しています。

❖求める人材像（求める能力）

- ・ 知識・理解 競技スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ 技能 競技スポーツの経験を有し、競技力向上のために科学的に課題を分析できる人
- ・ 態度・志向性 スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ その他能力・資質 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

❖入学者選抜のねらい

スポーツ科学科では、競技スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、競技力向上を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって、学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む4つの推奨コース（アスリート・コーチコース、トレーナーコース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラム

の中に各コースの推奨科目群およびコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

スポーツ・運動の理論と実践を統合した教育を体系的に行うため、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。実技科目については、自らが専門とするスポーツ種目を学べるように、選択必修の実技科目を多く配置しています。そして、「スポーツ実習Ⅱ」や「コーチ法演習」などの科目では、専門とするスポーツ種目のコーチング理論を深めるとともに、リーダーシップ・コミュニケーション能力および倫理的思考力の育成も行っています。

○ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 スポーツ・運動の医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 専門とするスポーツの技術構造について理解し、説明できる。
- A-3 専門とするスポーツの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

【技能】

- B-1 専門とするスポーツの技術を習得し、競技等の場面において発揮することができる。
- B-2 専門とするスポーツの技術構造や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 スポーツ・運動を通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 スポーツ・運動を通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

【態度・志向性】

- C-1 スポーツ科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 スポーツ・運動について自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 スポーツ・運動を論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 スポーツ・運動を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 スポーツ・運動についてマネジメント等に取り組む意欲を持っている。

■ **健康運動科学科** 学位（教育）プログラム名：健康運動科学

●人材養成の目的

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

健康運動科学科三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

❖養成する人材像・教育課程の特色

健康運動科学科は、心身の健康の回復や保持増進を目指した医科学分野の知識を有し、創造的・

実践的な指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、健康運動・レクリエーションに関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した 3 つのコースを用意しています。健康運動関連資格取得を目指す健康運動指導者コース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応した健康運動科学の在り方を探求しています。

❖求める人材像（求める能力）

- ・ 知識・理解 生涯スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ 技能 生涯スポーツの経験を有し、健康の回復や保持増進について科学的に分析できる人
- ・ 態度・志向性 スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ その他能力・資質 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

❖入学者選抜のねらい

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1 年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1 年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む 3 つの推奨コース（健康運動指導者コース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群とコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

健康運動・レクリエーションの理論と実践を統合した教育を行うために、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。また、健康運動・レクリエーションに関わる実習科目や演習科目では、現場の実践に即した科学的指導能力やマネジメント能力を高め、地域社会に貢献する態度を身につけられるようにしています。

○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1 年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1 年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めるために、一部選抜制を含む 3 つの推奨コース（健康運動指導者コース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群とコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

健康運動・レクリエーションの理論と実践を統合した教育を行うために、「スポーツ科学演習」

「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。また、健康運動・レクリエーションに関わる実習科目や演習科目では、現場の実践に即した科学的指導能力やマネジメント能力を高め、地域社会に貢献する態度を身につけられるようにしています。

○ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 健康運動・レクリエーションの医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 健康運動・レクリエーションの技術について理解し、説明できる。
- A-3 健康運動・レクリエーションの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

【技能】

- B-1 健康運動・レクリエーションの技術を習得し、運動指導等の場面において発揮することができる。
- B-2 健康運動・レクリエーションの技術や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 健康運動・レクリエーションを通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 健康運動・レクリエーションを通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

【態度・志向性】

- C-1 健康運動科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 健康運動・レクリエーションについて、自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 健康運動・レクリエーションを論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 健康運動・レクリエーションの技術を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 健康運動・レクリエーションについてマネジメント等に取り組む意欲を持っている。

(2) スポーツ健康科学研究科

●人材養成目的及びその他教育研究上の目的

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、運動、スポーツ、レクリエーション、レジャー、体育、健康、福祉等を対象とする学問の深化を図り、健康長寿社会の実現に向けて貢献し、高度なスポーツ知を拓く研究科として機能することを教育理念とする。博士課程前期では、競技スポーツ・学校体育・地域スポーツ・医療等の指導現場において高度な知識と技術を基に、体育・スポーツ・健康・レクリエーションに関する科学的指導を実践・応用できる専門家の養成を行う。博士課程後期では、健康増進や疾病・障害の治療・予防・再発防止を目的とした運動プログラムの開発・実践に関する研究や、幼少期から高齢期に至るライフステージに応じたスポーツパフォーマンスの向上を目的とした研究などの専門的な領域について自立して研究活動を行い得る研究者を養成する。

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻三つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

本研究科は、博士課程前期では、指導現場において科学的指導を実践・応用できる人材を育成するという観点から、

1. スポーツや運動を科学的観点から研究することに興味のある人
2. 競技スポーツにおいてパフォーマンスを向上させる科学的方法に興味のある人
3. 教育の現場でより高度な科学的成果を取り入れようとしている人
4. 医療現場で運動により健康の維持や疾病の予防しようとする人

の入学を求めている。また、博士課程後期では、高等教育機関あるいは研究機関において独立して研究できる人材を育成するという観点から、

1. 基礎的な学力を有し、創造的で柔軟な発想を持ち、研究を遂行することができる人
2. 博士課程前期では十分な研究成果を得られず、研究を継続することを望む人
3. 医療や健康増進に強い熱意がある人
4. 広く自分の研究成果を国外にも発信したい人
5. スポーツ・体育分野の出身者以外にもスポーツや健康を科学的に研究することに興味のある人の入学を求めている。

そのため、体育、体育・スポーツ科学関連学部の卒業生のみならず、広範囲からの領域の学生の受け入れを目指している。特に、社会人や外国人は積極的に受け入れる。

○カリキュラム・ポリシー

博士課程前期では、各自の専門性を高めるために、各部門に「特別研究」と「特講」などの専修科目を設置し、同時に、関連する領域の知識の獲得を意図した非専修科目が配置している。特に、スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目が用意されている。さらに、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目は部門の枠を越えて幅広い知識の獲得を目指している。

博士課程後期では、博士論文指導を目的とした「特別研究」以外にも、全論文指導教員および論文指導補助教員によるオムニバス形式の科目を配置し、基本的なリサーチメソッドの獲得に資している。

○ディプロマ・ポリシー

博士課程前期では、福岡大学大学院学則に定める必要な事項を充足した上で、以下の能力を有することを学位授与の要件とする。

1. スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に修士論文としてまとめる能力
2. 修士論文の研究の背景、目的、方法、結果およびその意義を説明する能力
3. スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する能力

博士課程後期では、福岡大学大学院学則に定める必要な事項を充足した上で、以下の能力を有することを学位授与の要件とする。

1. スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に博士論文としてまとめる能力
2. 博士論文の研究の背景、目的、方法、結果およびその意義を説明する能力
3. スポーツ健康科学分野の高等教育機関あるいは研究機関において、自立して研究活動を遂行する能力

2 2020年度 活動年譜

2020年		【学部】	【研究科】
4月	1日	入学式（中止）	入学式・新入生ガイダンス
	2日	新入生オリエンテーション 前期クラス面談（1年次）	
	24日	前期授業開始	
5～6月		前期修学指導	
	13～29日	前期クラス面談（2年次）	
6～7月（中止）		父母懇談会（本学・各地）	
6月	11日～	ゴルフ実習	
	8月12日（遠隔）		
	下旬～	前期授業アンケート	
7月	27日		大学院推薦入試
	23日	前期授業終了	前期授業終了
	25～31日	教育調整期間①	
8月	3～6日（中止）	プール実習	
	3～7日	集中講義（前）	
	4日	夏季休業開始	
	7日（遠隔）		修論中間報告会
	4～7日（遠隔）	キャンプ実習（Ⅱ）	
	8日（中止）	オープンキャンパス	オープンキャンパス
	24～26日（遠隔）	キャンプ実習（前段）	
	31日		秋季大学院入試
9月	7～9日（遠隔）	キャンプ実習（後段）	
	8～11日（中止）	海浜実習	
	7～11日	集中講義（後）	
	13日	夏季休業終了	
	14日	後期授業開始	後期授業開始
	17～10月2日	後期クラス面談（1年次）	
	26日	前期卒業式	
10月	1日		学位記授与式（修士）
	5～16日	後期クラス面談（2年次）	
11月	26～29日	学校推薦型選抜A方式入試	

12月	12日(中止)	ステップアッププログラム	
	(中止)	先輩と語るー大学と社会ー	
	下旬～	学部祭	
	27日	後期授業アンケート	
		冬季休業開始	冬季休業開始

2021年		【学部】	【研究科】
1月	4日	冬季休業終了	冬季休業終了
	5日	後期授業再開	後期授業再開
	13日	後期授業終了	後期授業終了
	15日(遠隔)	FDワークショップ	
	16・17日	共通テスト	
	18～23日	教育調整期間③	
	26日(遠隔)	卒業論文発表会	
	(中止)	謝恩会	
	27～29日	時間割編成会議	
	28・29日・2月1・2日 (中止)	スケート実習	
	29～2月2日(中止)	スキー実習(前段)	
2月	2日～	一般入試・系統別	
	3日～	一般入試・前期日程	
	3～5日(遠隔)	冬季キャンプ実習	
	7日～	一般入試・GS実技	
	7日	シラバスチェック	
	9日(遠隔)		修士論文発表会・公聴会
	14～18日(中止)	スキー実習(後段)	
	19日		春季大学院入試
3月	5日	一般入試・後期日程	
	16日		学位記授与式(博士)
	19日(縮小)	卒業式	卒業式・学位記授与式(修士)
		授業アンケート報告	
	21日	在学生履修登録開始	
	23日		在学生履修登録開始
	28日	在学生履修登録終了	
	29日		在学生履修登録終了

3 教員組織 (2020年度)



スポーツ科学部長	米 沢 利 広	
教 授	青 柳 領	(幼児発育発達・スポーツ計量論)
	乾 真 寛	(コーチ学・サッカー)
	岩 本 英 明	(スポーツ整形外科・スポーツ医学)
	上 原 吉 就	(スポーツ内科学・スポーツ医学・予防医学)
	柿 山 哲 治	(スポーツ教育学・保健体育科教育学)
	柿 本 真 弓	(コーチ学・ダンス・体操・新体操競技)
	片 峯 隆	(コーチ学・運動学・バイオメカニクス・陸上競技)
	川 中 健太郎	(スポーツ栄養学・生化学・分子運動栄養学)
	小牟礼 育 夫	(スポーツ方法学・バスケットボール)
	下 園 博 信	(スポーツ心理学・スポーツ方法学・ラグビー)
	田 口 晴 康	(スポーツ運動学・体操競技・器械運動)
	田 中 守	(体力学・トレーニング学・生理学・ハンドボール)
	築 山 泰 典	(野外教育学・レクリエーション)
	中 原 一	(スポーツ方法学・柔道)
	布 目 寛 幸	(バイオメカニクス)
	檜 垣 靖 樹	(スポーツ生理学・健康運動学・予防医学)
	藤 井 雅 人	(スポーツ社会学・スポーツ教育学)
	村 上 純	(スポーツ方法学・コーチ学・ラグビー)
	森 口 哲 史	(公衆衛生学・鍼灸医学・ハンドボール)
	山 口 幸 生	(運動心理学・行動科学・テニス)
	米 沢 利 広	(スポーツ方法学・バレーボール)
特任 教授	梅 田 保 人	(保健体育科教育学)
准 教 授	今 村 律 子	(保健体育科教育学・コミュニケーション論)
	坂 本 道 人	(コーチ学・柔道)
	重 森 裕	(脳神経外科学・救急医学・スポーツ健康科学)
	田 場 昭一郎	(コーチ学・競泳)
	野 口 安 忠	(コーチ学・スポーツ方法学・陸上競技)
	道 下 竜 馬	(スポーツ生理学・健康運動学)
	長 島 和 幸	(体育哲学・スポーツ史・レスリング) (2020.9.1～)
講 師	霜 島 広 樹	(スポーツ経営管理学・スポーツ産業論)
	信 岡 沙希重	(コーチ学・陸上競技)
	渡 邊 正 和	(バイオメカニクス・コーチ学・硬式野球)

助 教 安 部 七 波
 (~2020.12)
 伊 藤 獎
 岩 崎 領
 大 坪 俊 也
 川 上 翔 太 朗
 木 戸 康 平
 古 瀬 裕 次 郎
 佐 野 智 樹
 長 嶺 健
 西 田 智
 福 嶋 洋
 松 永 真 季
 村 手 一 斗
 山 本 泰 暉
 渡 邊 孝 士 郎

助 手 朝 野 新 菜
 江 藤 佳 祐
 大 関 七 采
 太 田 史 瑠
 岡 川 悠 生
 金 川 悠 太
 高 橋 大 輔
 谷 藤 康 和
 築 城 康 拓
 寺 田 光 輝
 宮 田 卓 哉

教育技術職員 田 村 雄 志
 徳 島 了

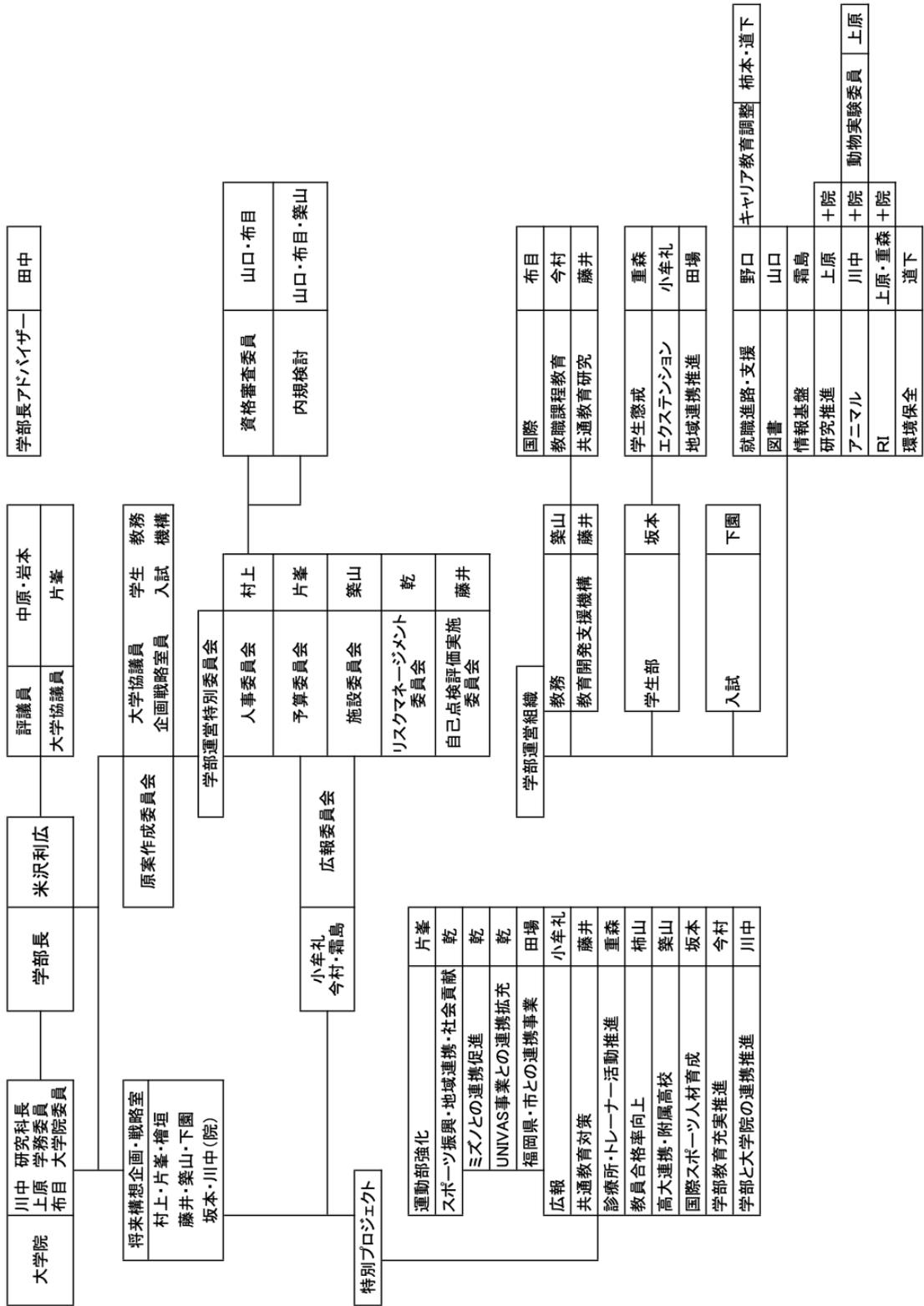
中 島 志 穂 子
 森 下 奈 央

大学院スポーツ健康科学研究科 担当教員 (2020 年度)

スポーツ健康科学研究科長 川 中 健 太 郎

教 授	青 柳 領	教 授	布 目 寛 幸
	岩 本 英 明		檜 垣 靖 樹
	上 原 吉 就		藤 井 雅 人
	柿 山 哲 治		森 口 哲 史
	川 中 健 太 郎		山 口 幸 生
	下 園 博 信	准 教 授	今 村 幸 律 子
	田 口 晴 康		重 森 裕
	田 中 守		道 下 竜 馬
	築 山 泰 典	講 師	霜 島 広 樹
		助 教	木 戸 康 平

スポーツ科学部教員組織図(2020.4-)



4 入試状況、学生数及び卒業生数、出張講義

(1) スポーツ科学部

下園 博信

■ 推薦入試

A方式推薦入試（実技型・学力型）に関し、スポーツ科学科では、募集人員が60名で、実技型の志願者は128名、合格者が59名(競争率2.2倍)であった。学力型の志願者は24名で、合格者3名(競争率8.0倍)であった。また、健康運動科学科では、募集人員18名に対し、実技型の志願者は15名で合格者14名(競争率2.1倍)であった。学力型の志願者は8名で、合格者3名(競争率2.7倍)であった。両学科の競争率は実技型で2.2倍と2.1倍であり、募集人員の少ない健康運動科学において第2志望合格を継続実施している。

次に、アスリート特別選抜入試に関しスポーツ科学科では、志願者47名に対し合格者42名(競争率1.1倍)、健康運動科学科では志願者8名に対し合格者8名(競争率1.0倍)、合計50名の合格者であった。アスリート特別選抜入試は、全学として92名の出願に対し81名の合格者であり、合格者に占める本学部への合格者の占める割合は61.7%であった。

推薦入試状況

学科	A方式推薦入試（実技型/学力型）					スポーツ特別推薦入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	募集人員	志願者	合格者	競争率
スポーツ科	60	128/24	128/24	59/3	2.2/8.0	50程度	47	42	1.1
健康運動科	18	15/8	15/8	14*/3	2.1/2.7		8	8	1.0

競争率=受験者÷合格者（第二志望合格者を除く）、（アスリート特別選抜入試は志願者÷合格者）*欄は第二志望合格者(7人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 総合型選抜入試

スポーツ科学科に関しては、募集人員29名に対し、志願者115名で合格者29名(競争率4.0倍)であった。また、健康運動科学科に関しては、募集人員5名に対し、志願者10名で合格者4名(競争率5.0倍)であった。また、健康運動科学科では第二志望合格2名を含むためスポーツ科学科に近い競争率となった。

学科	募集人員	志願者	合格者	競争率
スポーツ科	29	115	29	4.0
健康運動科	5	10	*4	5.0
合計	34	125	33	-

競争率=受験者÷合格者（第二志望合格者を除く）*欄は第二志望合格者(2人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 一般入試

系統別日程では、スポーツ科学科が、募集人員6名に対し、受験者88名で合格者37名(競争率

2.4倍)であった。また、健康運動科学科は、募集人員3名に対し、受験者65名で合格者19名(競争率3.4倍)であった。

前期日程では、スポーツ科学科は募集人員55名に対し、実技型においては受験者211名で合格者68名(競争率3.1倍)、小論文型においては受験者77名で合格者27名(競争率2.9倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員20名に対し、受験者113名で合格者43名(競争率2.6倍)であった。

後期日程では、スポーツ科学科が募集人員6名に対し、受験者19名で合格者6名(競争率3.2倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員3名に対し、受験者6名で合格者4名(競争率1.5倍)であった。

共通テスト利用入試Ⅰ期では、スポーツ科学科が募集人員7名に対し、受験者77名で合格者21名(競争率3.7倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員3名に対し、受験者38名で合格者17名(競争率2.2倍)であった。

共通テスト利用入試Ⅱ期では、スポーツ科学科が募集人員5名に対し、受験者68名で合格者10名(競争率6.8倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員3名に対し、受験者30名で合格者7名(競争率4.3倍)であった。

系統別日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者	合格最高点	合格最低点
スポーツ科	6	90	88	37	2.4		313	230
健康運動科	3	67	65	19	3.4		313	249

前期日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者	合格最高点	合格最低点
スポーツ科	55	実技型						
		216	211	68	3.1	0	239	172
		小論文型						
		77	77	27	2.9	0	232	174
健康運動科	20	115	113	43	2.6	6	242	179

後期日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	6	20	19	6	3.2
健康運動科	3	6	6	4	1.5

共通テスト利用入試 I期

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	7	77	77	21	3.7
健康運動科	3	38	38	17	2.2

共通テスト利用入試 II期

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	5	68	68	10	6.8
健康運動科	3	30	30	7	4.3

編・転・学士入試

学科	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	1	1	0	—

競争率=受験者÷合格者

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

■ 学生数及び卒業生数

学生数

(令和3年3月1日現在)

		1年次	2年次	3年次	4年次以上
スポーツ科学科	902	226	229	216	231
健康運動科	291	73	73	70	78
合計	1,193	296	302	286	309

■ 出張講義

2021年度入学センターより依頼があり実施した出張講義・模擬講義数は9件(生徒総数367名)と昨年度18件(生徒数1,082名)より大幅に減少した。減少の要因は、偏に新型コロナウイルス感染症によるところと考える。9件のうち3件は、オンラインでの実施となり、学部教員の協力により実施することができた。出張講義ガイドブック「福岡大学模擬講義 NAVI」には、本学部教員20名も掲載されている。また、例年マリンメッセ福岡で開催されていた「夢ナビライブ」は、こちらもオンライン形式に変更され、336名の生徒が講義動画を視聴し、そのうち55名の生徒とWEB上で質疑応答を行う機会を得た。

■ 令和2年度実施入試状況

アスリート推薦入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	1	1	1

飛び級入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	0	0	0

一般入試

	秋季*			春季*		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	2(0)	2(0)	1(0)	6(0)	6(0)	5(0)
博士課程後期	0	0	0	2(2)	2(2)	2(2)

* () 内 社会人

外国人留学生入試

	秋季*			春季*		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	2	2	1	1	1	1
博士課程後期	0	0	0	0	0	0

推薦入試**

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	2(1)	2(1)	2(1)

** () 内 早期履修者数、但し該当学生は合格後 入学辞退

■ 令和2年度 学生数及び修了生数

学生数

(令和2年5月1日現在)

		1年次	2年次 (留年者含む)	3年次 (留年者含む)
博士課程前期	21	11	10	
博士課程後期	10	1	1	8
合計	31	12	11	8

令和2年度の修了生については、博士課程前期修了7名が学位(修士号)を取得。博士課程後期修了2名が学位(博士号)を取得し、満期退学が0名であった。

5 教育活動

(1) 入学前教育

下園 博信

令和3年度総合型選抜入試及び推薦入学合格者に対して、外部業者と連携し、基礎国語3講、スポーツ科学入門7講の計10講からなる通信教育形式による入学前教育を実施している。今年度は、課題提出率（令和3年3月27日現在）は、総合型選抜入試合格者は100.0%、推薦試験合格者は89.5%であった。

基礎国語

- 1 講：PC時代に相応しい言葉力をつける・ノートを作る
- 2 講：ことばを自分のものにする(短文作り)
- 3 講：目の前のものを正確に描写する

スポーツ科学入門基礎

- 1 講：「スポーツ科学」の研究領域
- 2 講：身体の構造と機能
- 3 講：フィットネス・トレーニング
- 4 講：スポーツのスキル
- 5 講：アスリートの身体管理
- 6 講：運動の効果とスポーツ損傷
- 7 講：データの処理

(2) 新入生懇談会

坂本 道人

新入生物学部指導懇談会は、以下の内容を新入生に理解させ、活力ある学生生活となるための動機づけを行うものとして実施している。しかしながら、今年度においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、3月17日（火）に開催された学生部委員会において「令和2年度学部指導懇談会」の延期もしくは中止が承認された。これを受け、本学部では、教務を中心とした独自の新入生オリエンテーションを下記のとおり2部構成で開催することとした。

○主な内容

- 1) 福岡大学の校訓を理解し、充実した学生生活を送るための諸注意。
- 2) スポーツ科学部生としての自覚を促し、スポーツ活動に専心する心構えと勉学に励む態度を啓発する。
- 3) 各種委員からのガイダンスにより、学生生活を円滑に始められるようにする。

○2020年度スポーツ科学部新入生オリエンテーション

1) 第1部

<日時> 令和2年4月2日(木曜日) 9:00～

<場所> 第2記念会堂1011・1221・1222教室および第二記念会堂体育館

<内容> ①パスワードの配布と情報教育(霜島)
②学生部ガイダンス:大学生活に関わる諸問題とその対応について(坂本)
③個人カードの記入とオリエンテーションノートについて(築山)
④奨学金の説明

2) 第2部→中止

<日時> 令和2年4月6日(月曜日) 13:00～

<場所> 第2記念会堂1011・1221・1222教室および第二記念会堂体育館

<内容> ①日本語能力テスト(藤井)
②グループタイム(全学部教員)

第1部に関しては、新入生を3教室に分散させ、それぞれの教室を各担当者が持ち時間(20分間)で教室を移動しながら説明を行うかたちで実施した。

第2部については、政府が4月7日(火)福岡県において「緊急事態宣言」を発令する意向であることを示したことから、本学執行部でも協議が行われ、その結果、4月6日以降のガイダンスをすべて中止にすることが決定された。

(3) クラス面談・修学指導

坂本 道人

■ クラス面談について

スポーツ科学部では、1・2年次生を対象にクラス別個人面談(グループディスカッション)を実施している。クラス別個人面談は、講師以上の専任教員が10～12名程度のクラスを担当し、定期的に学生の実態調査を行うもので、学生の生活状況や生活態度を把握するとともに、学生に対する注意喚起を行っている。大学生活を通じての授業、所属する運動部やサークル等の課外活動、アルバイト等の活動における問題点や悩みなどに対応し、個々にアドバイスできるような指導体制である。なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)の感染拡大の影響により、全学生に大学構内への入校制限がなされたため、面談の方法はすべてリモート型での実施となった。実施された面談については以下の通りである。

1) 各担当教員における新入生を対象とした個人面談(WEB・電話・メール)

前期:4月中旬・後期:9月17日(木)～10月2日(金)

今年度は、コロナの影響により、新入生懇談会ならびにグループディスカッションが中止になったことを受け、新入生の状況把握ならびに万が一、感染した際の行動手順伝達を目的とす

る個人面談を全教員で実施した。なお、従来であれば新生には、6月に再度面談を行っているが今年度は、遠隔授業対応に迫られることに配慮して、前期は一度のみの面談とした。

2) 各担当教員における2年次生を対象とした個人面談（前後期に各1回）

前期：5月13日（水）～29日（金）・後期：10月5日（月）～10月16日（金）

1年次生は、学士課程の教育充実を図るために、基礎教育と導入教育を目的とした「フレッシュマンセミナー」が開講されており、その授業の1コマとして前後期に各1回ずつクラス面談を実施している。

2年次生は、継続的な指導として、1年次に担当した教員により引き続き個別指導が実施され、前・後期にクラス面談が行われる。

3年次生以降は、必修科目である卒業論文の事前指導として開講されている「スポーツ科学演習」を履修するため、各担当教員のゼミナールに所属し、その後、卒業までゼミナールの担当教員によって個別指導が行われる。

スポーツ科学部では、このような取り組みによって徹底した学生の指導体制を構築しており、学生も様々な立場にある教職員の助言・指導を受け、4年間の充実した学生生活が期待され、その成果は非常に大きい。

■ 修学指導について

スポーツ科学部は、前述した通り全学生を対象としたクラス別個人面談と修学指導対象の学生に対して面談を実施している。クラス面談に加えてさらに指導が必要な学生には、教務委員、学生部委員、入試委員、教務関係担当の教職員によって修学指導を実施している。対象となる学生は以下の通りである。

- 1) 2年次生：1年次の修得単位数が23単位以下の学生
（登録単位数の半分以下の学生が対象）
- 2) 3年次生：2年次までの修得単位数が46単位以下の学生
- 3) 4年次生以降：3年次までの修得単位数が77単位以下の学生（卒業見込みなし）

面談については、今年度は、従来の掲示での連絡によって、1221教室で対面での実施はできないため、ゼミや部活、担任などの関係教員に協力を賜り可能な限り関わりがある先生方に、アポイントメントを取って頂き（できればWebex）可能な限り一対一での面談を実施し、後日記録書の提出を求めた。

面談の内容については、例年通り修学指導記録書に「なぜ単位を取れなかったのか？」「今後の対応はどうするのか？」といった点を記録して学生の指導を行った。単位修得不振学生は、「授業の欠席が多いこと」「試験勉強が十分にできなかったこと」「試験そのものができなかったこと」を理由に挙げている。1年次には、安易に単位修得ができると油断して単位修得できなかった学生や、試験勉強の方法がわからないといった学生も散見された。このような点を踏まえて、試験勉強に対する助言・指導、授業への出席指導、今後の進路に対する助言・指導を行った。

学部・年次別の単位修得不振者の状況 (%)

(令和3年4月1日現在)

	令和2年度入学生 (20台)	平成31年度入学生 (19台)	平成30年度入学生 (18台)
修得単位	30単位以下	60単位以下	90単位以下
学部・学科			
スポーツ科学部	5.8	4.4	5.3

父母懇談会のしおりより一部抜粋

(4) フレッシュマンセミナー授業方法

築山 泰典・藤井 雅人

本セミナーは、学生自身が「如何に学び、社会に貢献するか」について自問自答ながら自学自習を実践し、スポーツ科学部生としての規範とスポーツ科学部で学ぶ専門領域を理解し、卒後の進路と目標を明確に示すことができるようになることを目的としている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、遠隔での実施となった。この時、授業内容は、1) 米沢学部長による「スポーツ科学部生として、理論と実践が融合した文武合一のすすめ」、2) コンピテンシー診断テスト、3) スポーツ科学部専任教員による専門性を生かした講義、4) スポーツ科学部全教員による1年次学生に対する個別の就学指導、などで構成されている。尚、今年度は遠隔での授業実施のため、文章力講座、日本語力基礎調査そして言葉の力プログラムは実施できなかった。以下に、特筆すべき取り組みについて記載する。

コンピテンシー診断テストは、平成30年度以降、2年次後期必修科目「ステップアップセミナー」での同テストの実施に合わせる形で、リアセック社の「PROG コンピテンシーテスト」を学部予算により実施している。コンピテンシーとは、リアセック社によれば、「対課題基礎力」(課題発見力、計画立案力、実践力)、「対人基礎力」(親和力、協働力、統率力)、「對自己基礎力」(感情制御力、自信創出力、行動持続力)の3つのキー・コンピテンシー(およびその下位構成能力)から成る「自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力」を意味する。診断テストの結果については、各自の結果報告書による個人フィードバック、および訓練を受けたリアセック社の講師が行う授業での事後フォローアップ講座による全体フィードバックがなされる。その際、学生には、初年次生として大学生活を始めるにあたって、各個人が自分自身を客観的に理解し、今後その「強み」や「課題」についてどのように取り組んでいくのかをイメージしながら、付録の「ワークシート」を活用してコンピテンシー強化のための具体的な目標設定を行うように指導がなされている。なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴って、コンピテンシー診断テストの実施およびその結果のフィードバックをオンラインにて行った。

スポーツ科学部専任教員による講義は、例年1コマで2名の教員が担当し全員が関わっていたが、今年度、遠隔授業への対応もあり、1年次必修講義科目を担当しない教員が主となる構成へ変更した。フレッシュマンセミナーの目的として「スポーツ科学の専門性を理解する」を掲げており、学生が教員の専門性から学部を理解することを優先した結果でもある。例年、知財に関する講義内容を組み入れていたが、よりスポーツ場面に特化内容とするため、大学スポーツ協会

(UNIVAS)の紹介と肖像権も含めた知財に関する教育を乾教授に依頼した。

フレッシュマンセミナーでは、初年次教育として大学での受講態度も含めた「学び方を学ぶ」との側面を大切にしてきたが、遠隔授業ではそのことが実施できなかった。また、文章力講座や言葉の力プログラムは、学生同士のコミュニケーションなど密な人間関係により成立し教育効果を上げてきたが、今後の新たな生活様式での展開手法を検討することが急務であると言える。

2020年度 1年次開講 スポーツ科学部フレッシュマンセミナー(前期)

《コロナウイルスの影響による学年暦変更対応後》

- 「スポーツ科学部生として如何に学び、社会にどのように貢献するか？」考えよう、そして実践しよう！
- 提示された課題について、ミニッツペーパーに自分の考えをまとめてみよう！

回数	1 (未定)	2 (教室は掲示板確認)	本講座のねらい ・高等学校までの“生徒”ではなく“学生”としての学び方・態度・行動を身に付ける ・スポーツ科学部生としての規範を身に付ける ・学生としての基本である“自学自習”を実践する ・スポーツ科学部教員の専門領域を理解する ・文章力および日本語能力の向上を図る ・卒業後の進路および目標を明確にする 「如何に学び、社会に貢献するか」
日付	4月2日ガイダンスで振替え	4月29日	
1年次全員	○米沢学部長：スポーツ科学部学生に望むこと	○築山教務委員：フレッシュマンセミナーのねらい	

回数	3 (教室は掲示板確認)	4 (教室は掲示板確認)	5 (教室は掲示板確認)	6 (教室は掲示板確認)
日付	5月6日	5月13日	5月20日	5月27日
1年生全員	○柿山先生	○信岡先生	○岩本先生	○重森先生

回数	7 (教室は掲示板確認)	8 (教室は掲示板確認)	9 (教室は掲示板確認)	10 (教室は掲示板確認)
日付	5月30日(土曜振替え)	6月3日	6月10日	6月17日
1年生全員	○築山	スポーツと知財 (UNIVASとの関連含む) ○乾先生	○小牟礼先生	○長島先生

回数	11 (教室は掲示板確認)	12 (教室は掲示板確認)	13 (教室は掲示板確認)	14 (教室は掲示板確認)
日付	6月24日	7月1日	7月8日	7月15日
1年生全員	○道下先生	○下園先生	○霜島先生	○授業アンケート

2020年度 1年次開講 スポーツ科学部フレッシュマンセミナー（後期）

- 「スポーツ科学部生として如何に学び、社会にどのように貢献するか？」考えよう、そして実践しよう！
- 提示された課題について、ミニッツペーパーに自分の考えをまとめてみよう！

回数	1(遠隔)	2(遠隔)	3(遠隔)	4(遠隔)
日付	9月16日	9月23日	9月30日	10月14日
1年次全員	後期オリエンテーション +クラス面談告知 築山	○今村先生	○上原先生	○渡邊先生

回数	5(遠隔)	6(遠隔)	7(遠隔)	8(遠隔)
日付	10月21日	10月28日	11月11日	11月18日
1年次全員	○桧垣先生	○梅田先生	○川中先生	○野口先生

回数	9(遠隔)	10(遠隔)	11(遠隔)	12(遠隔)
日付	11月25日	12月2日	12月9日	12月16日
1年次全員	○片峯先生	○藤井先生	○青柳先生	○田場先生

回数	13(遠隔)	14(遠隔)
日付	12月23日	1月6日
1年生全員	○森口先生	○授業アンケート

1) 本講座の背景

2020年度の全国大卒求人倍率は、1.53倍（リクルートワークス研究所調べ）と、前年の1.83倍より0.3ポイント低下し2年連続の低下となった。求人倍率が大幅に低下した2010年卒時（0.52ポイント低下）には及ばないものの、10年ぶりに0.3ポイント以上低下した。当初は、2021年度卒の求人倍率は1.72倍と、高水準を維持している状況であった。しかしながら、3月～6月の就職活動時期に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の感染拡大の影響を受け、企業が採用計画を縮小したことが大きな要因と考えられる。

このような状況のなか、本学部の就職率は、男子90.6（前年度93.6）%、女子88.1（前年度94.8）%、全体89.8（94.0）%であった。これら本学部の就職率をみても、コロナによる企業の採用計画縮小の影響を大きく受けた状況にあることがわかる。今後、本学部が就職支援において目指すべきものは、現在の社会情勢を鑑み、起業側の打ちだす採用手段に対応し得る学生のスキル向上を目的とした授業内容の充実を図ることにあると考えられる。

2) 本講座のねらい

2020年度における企業の新卒採用活動については、これまでと同様に広報活動日が3月1日以降、選考活動開始日が6月1日以降という短期決戦型という状況にあった。これについては、2017年、日本経済団体連合会（経団連）が「2021年卒から採用選考に関する指針の廃止」を決定したことが背景にあるとされている。また、このような背景から、事態を見据えた各企業が必要な人材を確保するための独自の採用方法を試験的に取り組み始めていることも要因として推察される。さらに今年度においては、コロナの影響により景況感の不透明さから企業側の採用計画の縮小などが起こり、学生にとっては、これまで以上に大変不安で厳しい状況が強いられていることが窺える。このような状況を受けて、本講座は、学生がよりスムーズに充実した就職活動を展開できるよう、活動を開始する直前の2年次後期に開講されている。内容についても、本学部生に関係の深い職種や学生の要望に沿った数名の講師をお招きし、自身の体験談、社会の実情、学生時代に身につけておくべきスキルなど様々な内容が盛り込まれている。また、近年の就職試験や採用試験では一般的であるSPIの小テストを毎時間実施するなど、継続的に一般教養力を高めることも併せて取り組んでいる。このように、学生一人一人の就職活動に対する興味を促し、この時期に何を考え、何を準備しておくべきかを考えさせることが本講座のねらいである。

3) 今年度の新たな取り組み

今年度のステップアップセミナーは、コロナの影響を受け、全プログラムを遠隔授業で実施した。遠隔授業の形態については、オンデマンド型授業を採用し、遠隔授業対応に迫られる学生にできるだけ配慮する内容とした。内容については、前年度と同様、各種学校教員やミズノ株式会社などで活躍している学部卒業生に協力を賜り、本学部生の特性や興味に沿うだけでなく身近な存在からのアプローチにより、受講生に将来を意識させる動機づけの充実を図った。また、近年、文部科学省において大学教育を通じたジェネリックスキル育成への期待が高まっていることを受け、コンピテンシーテストとその後のフォローアップセミナーも併せて実施した。さらに、今年度は、全国でも初の試みとなる大学スポーツ協会（UNIVAS）と正課内授業での連携をはか

り、受講生のキャリア支援（デュアルキャリアプログラム）ならびに、大学内における UNIVAS 運用両面の充実に取り組んだ。

4) 成果と課題について

これまでの本講座に対する学生の評価については、「私は、自分が好きなこと・楽しいことをメインに仕事をしたいと思っている。しかし、例えば『旅行が好き』イコール『旅行会社で働く』ことではなく、自分が行動としてどういった時にやりがいを感じるか・楽しいかということが重要であることを知った。だから、自分が何をしている時にやりがいを感じるか、もっと自分自身について知っていくことから始めていこうと思った。(GS 女子)」、「今回の講義を受講して、行動力は成功力という言葉が印象に残った。自分は行動をする前に何度も考えて、失敗したらどうしようと心配を必要以上にしてしまう。しかし、今回の講義の言葉にもある『失敗も経験。多くの経験を得ることで目標や夢の実現につながる』という言葉が示しているように、失敗を恐れずにどんどんやりたいことをやってみて経験を積んでいきたい。(GS 男子)」、「改めて、事前準備が欠かせないということを感じました。そして、知らない会社や部署などに対してもチャレンジ精神で何事にも取り組んでいくことが新たな成長につながることを学びました。知っていることだけを追求するのではなく新しいところに入っていきことも就職し次のステップへ進むときに大きな力になると思いました。(GS 女子)」、「自分が行ってきたことに結果がついてくれば絶対自信となり、いい影響を与えてくれると思う。この毎日の自分の行動を見直していけばいつの日か自分が目標にしていたもの以上のことが達成出来る気ができて頑張ろうと思えた。(挑戦し続ける力 GS 男子)」、「首藤さんは自分の就活軸とそれぞれの企業先の目指すところ・求める資質と照らし合わせながら、就職の幅を広げていました。多くの会社・企業があるので、自分の就活軸というものがしっかりしていることは、理想の就職先を見つけやすくなるので、自分は教員を志望しているのですが「理想の教員像」を常に持っていようと思います。

(GH 女子)」など、興味・関心の高さが伺える。また、今年度より、本講義のFDも兼ね、授業前後で自身の就職活動に対する意識調査を実施したところ、授業開始前に「かなり意識している、少し意識している」と答えた学生が229名(79%)であったのに対して、授業終了後では、252名(92%)と13%の上昇が確認された。以上の結果からみても、今年度、コロナの影響で全プログラムを遠隔授業で実施せざるを得ない状況下において、一応の成果を得ることができたのではないかと考える。

学生を取り巻く就職状況は前述のとおり毎年大きく変化している。本講座においても、それらの変化に対する迅速な対応が求められている。本講座における今後の課題について、まずは、インターンシップ（就業体験プログラム）関係講座の積極的な導入が挙げられる。これについては、近年、各企業において「採用直結型インターンシップ」が増加傾向にあることから、早急に取り組むべき課題といえよう。次に、本学の教育理念としても掲げられるグローバル人材育成に即した、海外留学という選択肢の話題にも力を入れることが挙げられる。さらには、今年度から新たに取り入れた大学スポーツ協会（UNIVAS）との連携、キャリア支援（デュアルキャリアプログラム）の活用もより充実させていく必要があると考えられる。以上のことを次年度以降に向けた課題として、本講座の更なる充実を図っていきたいと考える。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、遠隔授業形式を実施することとなったため、授業開始（4月24日）までの準備期間に、学部内での遠隔授業ツールの設定および接続人と、使用法等の研修会を行った。各教員は関連科目内容により、下記の時間帯に Webex で参加し、接続・操作確認をする場合は 1222 教室にノート PC を持参し、各自リモートで遠隔授業の進め方などの打ち合わせや、遠隔授業ツールの操作方法および確認を行った。

【関連科目別 遠隔授業準備期間】

- 4月15日 Webex の設定、接続確認（下記時間帯に Webex で参加）
- 4月16日 授業支援の活用法について（下記時間帯に Webex で参加）
- 4月17日 FU_box の活用について（下記時間帯に Webex で参加）

<関連科目内容>

- 「生涯スポーツ演習ⅠⅡ」10:00～11:00（主担当：藤井）
- 「専門－実技・演習」11:30～12:30（主担当：田口）
- 「専門－講義・実験」13:00～14:00（主担当：道下）
- 「生涯スポーツ論」14:30～15:30（主担当：霜島）

FU ポータルのアンケート作成（現小テスト）機能を使用して受講学生に対し、初回授業で受講環境調査を実施することとなった。「インターネット環境についてのアンケート調査」は、いずれも必修科目である1年次－生涯スポーツ演習Ⅰ（必修科目）、2年次－生涯スポーツ演習Ⅲ、3年次－スポーツ科学演習、4年次－卒業論文研究で実施し、「授業に関するアンケート調査」は、シラバス変更の確認や授業の目標入力があるため、全科目での実施とした。全教員がアンケートの作成法や FU_box の活用法など、下記の時間帯に Webex で参加、もしくは、1222 教室にノート PC を持参での質問・相談等の限られた時間の中で、遠隔授業に向けて準備を行った。

【遠隔授業ツール 使用および確認準備期間】

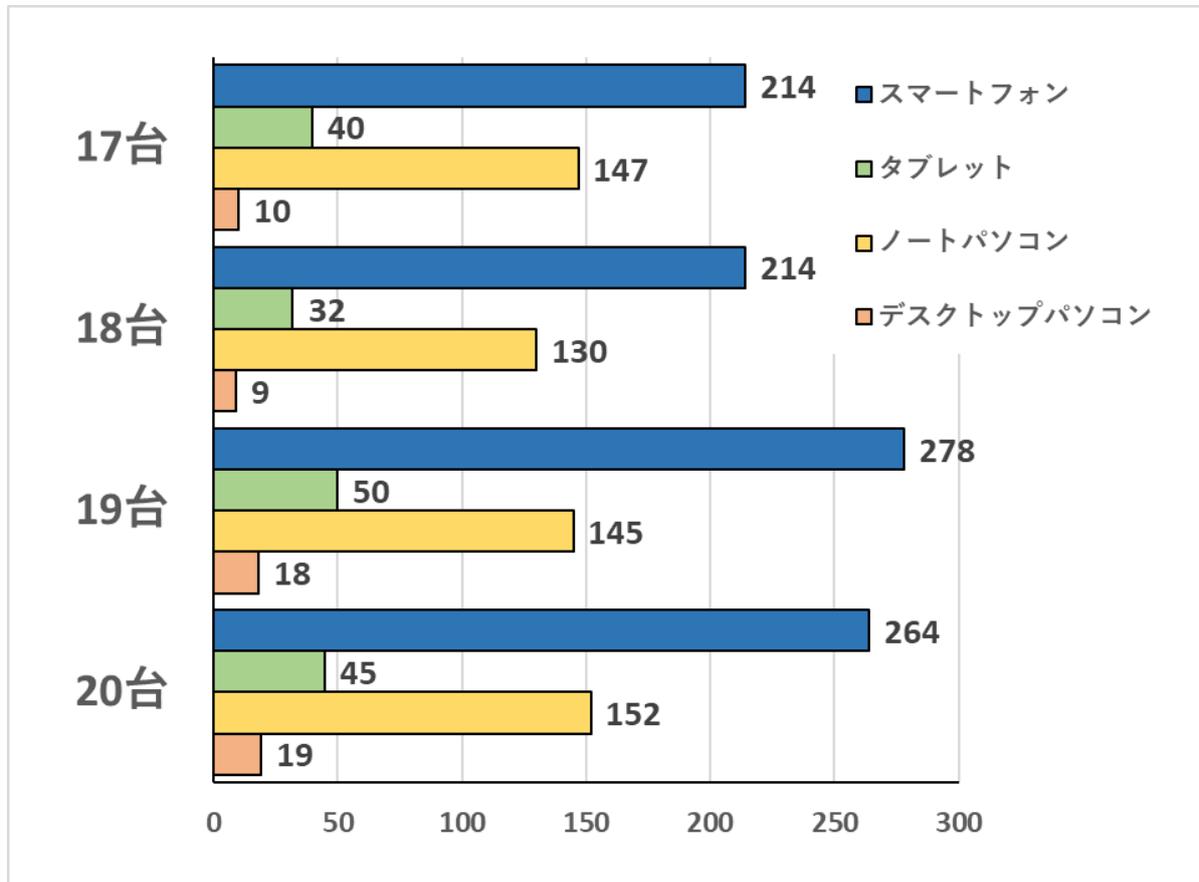
- 4月18・19日 ゼミ（4年生）へのテスト配信
- 4月20日 11:30～12:30 アンケート作成について質問・相談（担当：今村）
- 4月21日 13:00～14:00 FU_box の活用についての質問・相談（担当：下園）
- 4月22日 13:00～14:00 その他の確認・質問・相談（担当：築山）

前期1講目でFUポータルを活用し、学部の全学生を対象としWebアンケートを実施した結果をまとめた。「インターネット環境についてのアンケート調査（5項目）」「授業に関するアンケート調査（2項目）」の各項目を学年別で集計を行った。

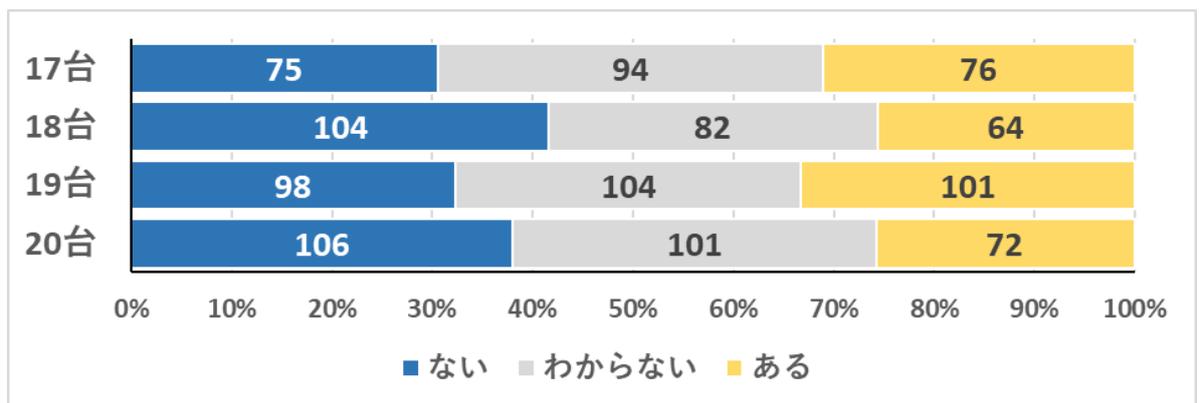
- 調査期間：令和2年4月24日～5月9日（前期：第1講目から1週間）
- 調査対象：スポーツ科学部全学生（回答者合計1075名）
20台（279名）、19台（303名）、18台（249名）、17台（244名）

「インターネット環境についてのアンケート調査（5項目）」

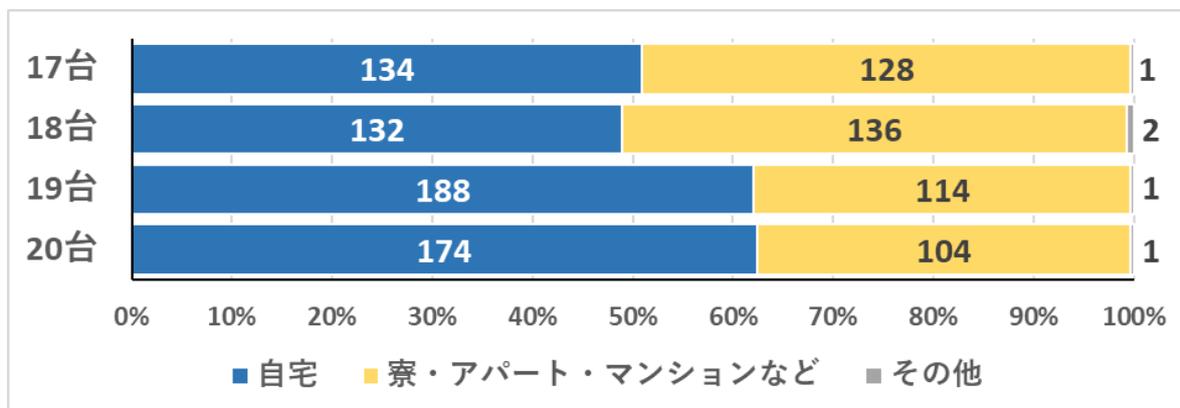
◆インターネットが利用できるツールは何を持っていますか？（複数回答可）



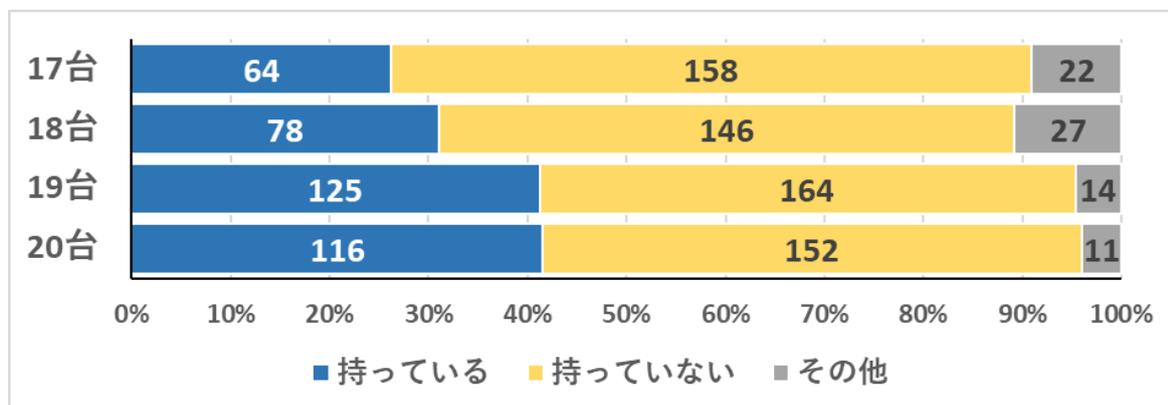
◆授業に使用する端末ツールにデータ使用容量に制限がありますか？



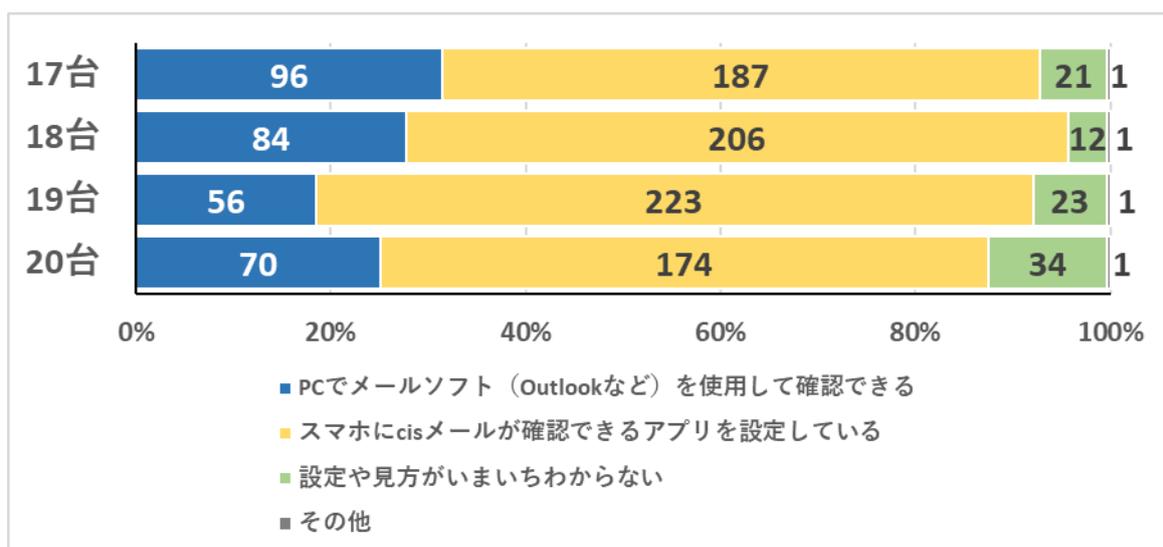
◆主にインターネットにアクセスする中心となる場所はどこですか？



◆現在、プリンターは持っていますか？

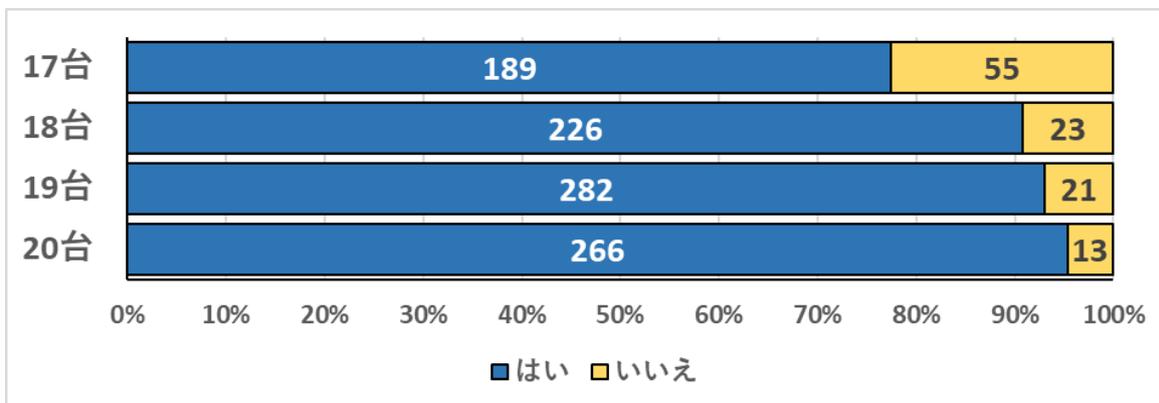


◆『cisメール（大学のメールアドレス）』を確認できる環境にしていますか？

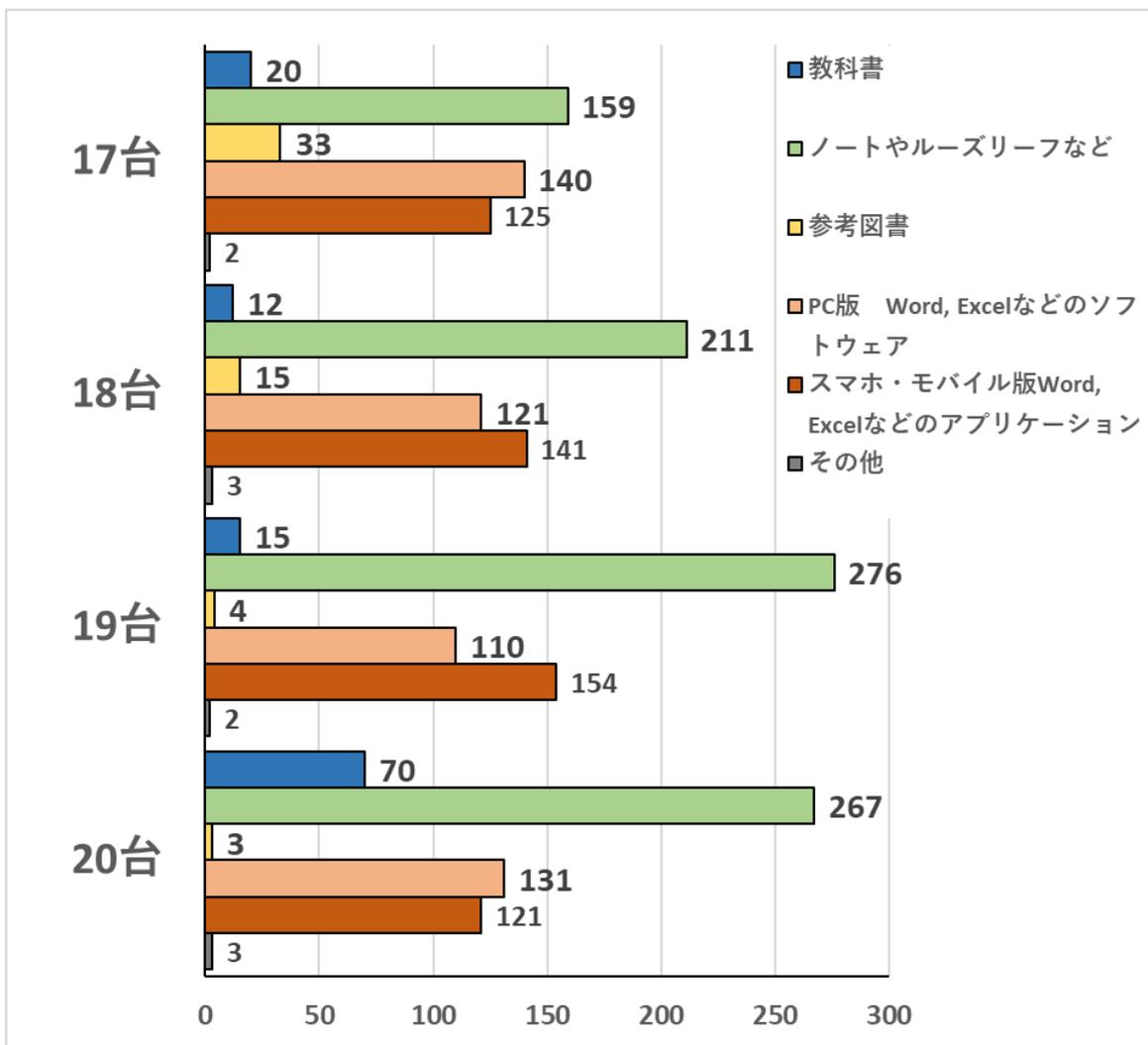


「授業に関するアンケート調査（2項目）」

◆授業支援—講義内容に示されている「シラバスの変更点」を確認しましたか？



◆教科書、そのほかの必要と思われるものの準備はできていますか？



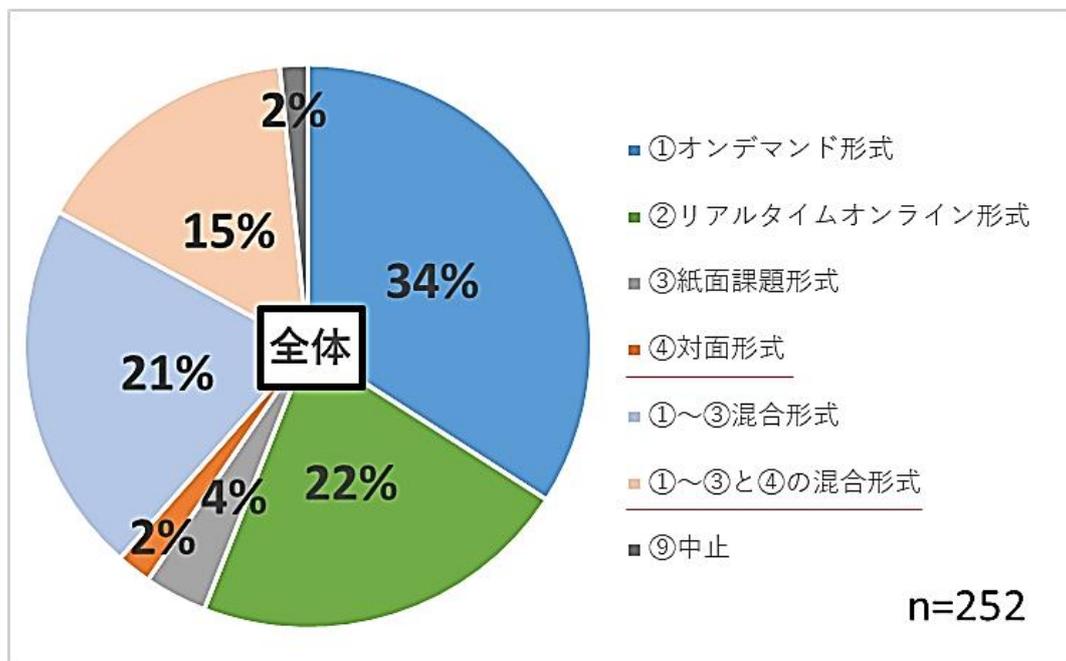
後期終了後に、スポーツ科学部の専門科目について、非常勤講師を除いた学部教員を対象に（252科目）、「講義形式および遠隔授業ツールの調査」を行った。まずは、主担当者が持つ授業科目について、授業形式（①オンデマンド形式—一定期間の動画視聴、②リアルタイムオンライン形式—時間割どおりの曜日時限に Webex を開催、③紙面課題形式—授業管理（cis メール送信も含む）にて、添付で課題提示）、④対面形式（その他欄に記述されたもの）を調査した。前期・後期、および、授業種別（講義、実技、演習、実習、実験）に集計を行った結果をまとめた。前期の対面形式の科目は限定されており、感染防止対策の徹底と、指導教員と補助教員の配置を決め、教授会にて審議・許可が得られた授業科目のみ実際に至った。後期は、人数の制限と感染対策下で、対面形式も可能となった。集中・実習に関しては、遠隔授業ツールを活用して実施されたキャンプ実習とゴルフ実習以外のアクアスポーツ実習・スキー実習・スケート実習、中止となった。

調査期間：令和3年3月12日～3月31日

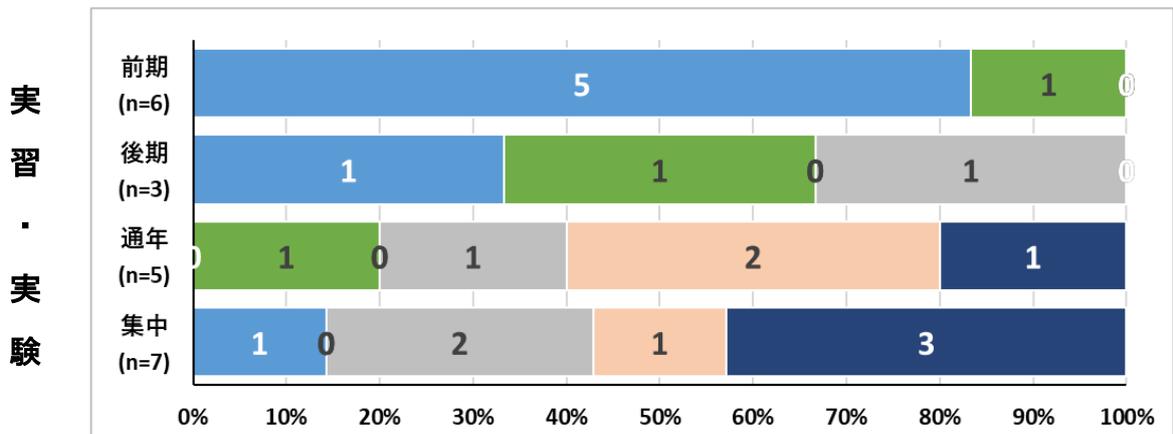
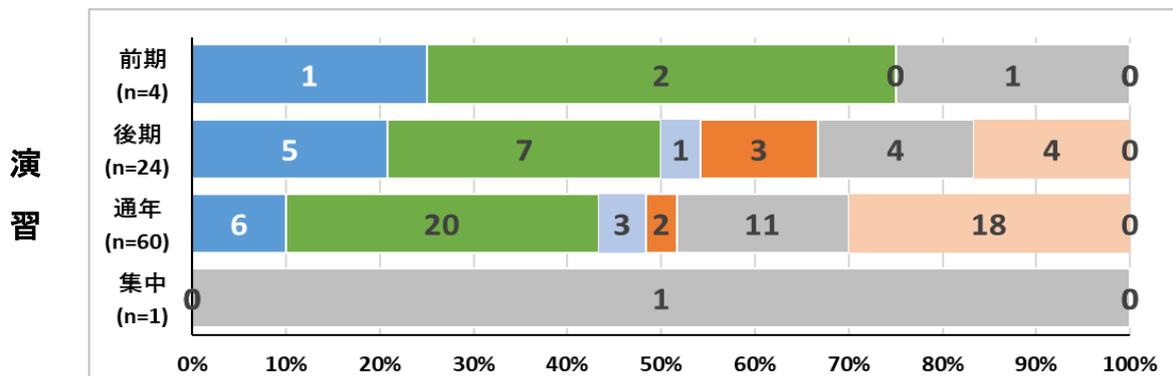
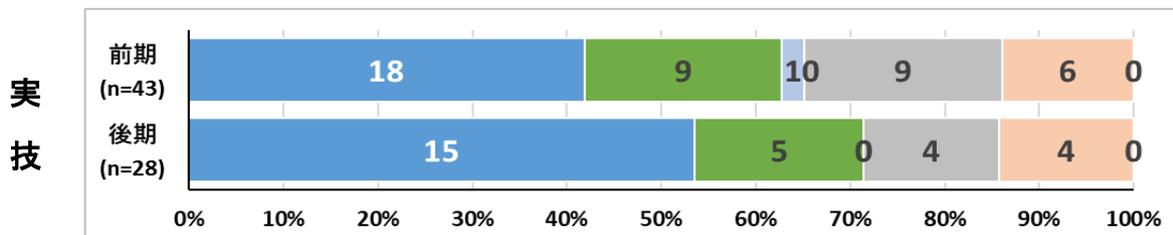
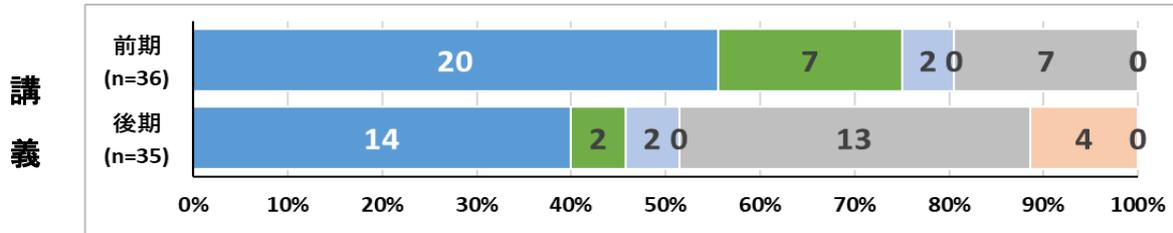
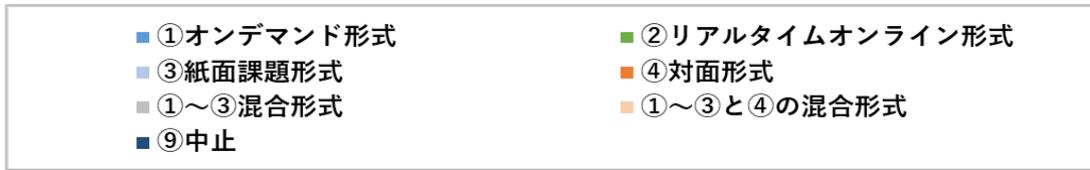
調査対象：スポーツ科学部専門科目担当教員（複数人で一科目を担当の場合は、主担当者のみ）で、非常勤講師担当科目を除く合計252科目

	講義	実技	演習	実習・実験
前期	36	43	4	6
後期	35	28	24	3
通年			60	5
集中			1	7

「遠隔授業形式について」



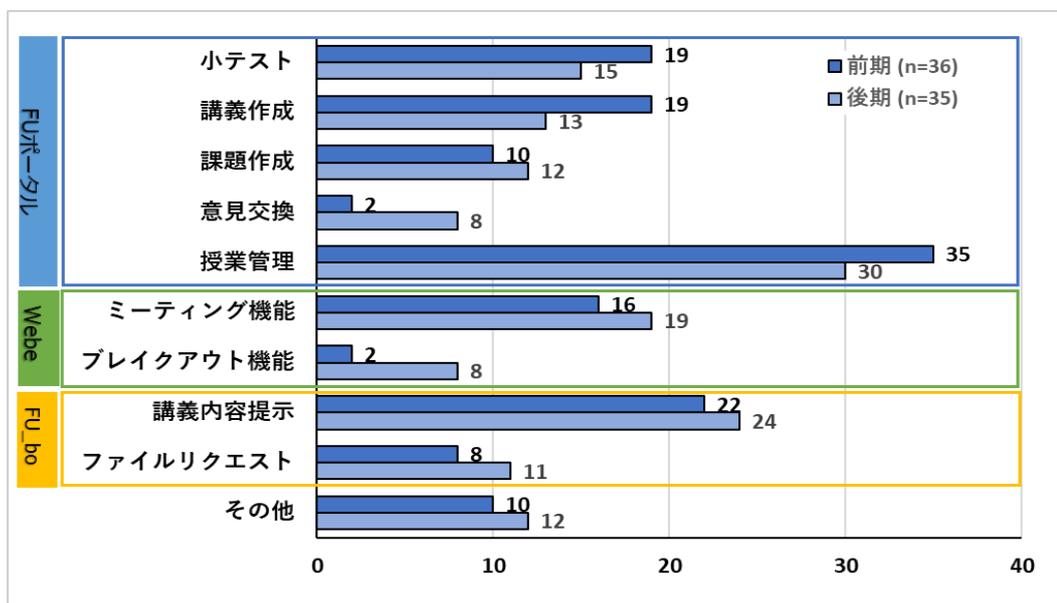
「遠隔授業形式について」—授業種別



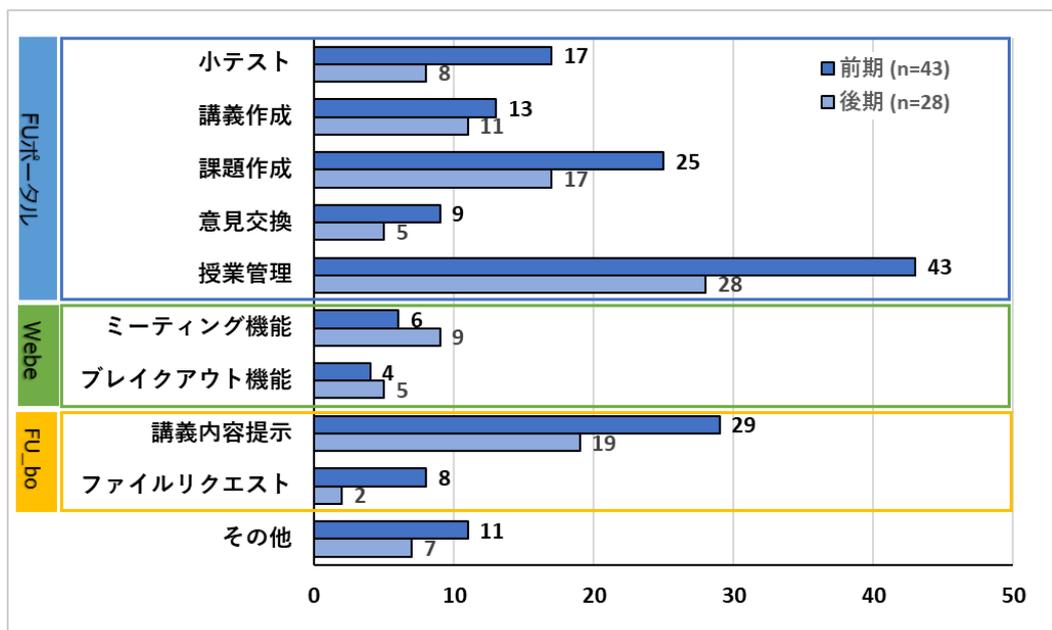
下記は、「遠隔授業ツールについての調査」の結果である。遠隔授業ツールは、【FU ポータル】—小テスト機能（前アンケート作成）、講義作成（講義内容の提示）、課題作成（課題提出機能）、意見交換（BBS 掲示板機能）、授業管理（連絡機能・cis メール自動送信も含む）、【Webex】—ミーティング機能、ブレイクアウト機能（グループミーティング）、【FU_box】—講義内容提示（サイズ容量無制限）、ファイルリクエスト（課題提出機能）について、各授業で使用したツールを調査した。Cisco 社の Webex は、後期にブレイクアウト機能が追加された。その他では、Google フォームや Microsoft Office365 の Forms といった Web アンケートソフトを活用し、受講記録や Web テストに使用していることが挙げられた。

「遠隔授業ツールの活用について」—授業種別

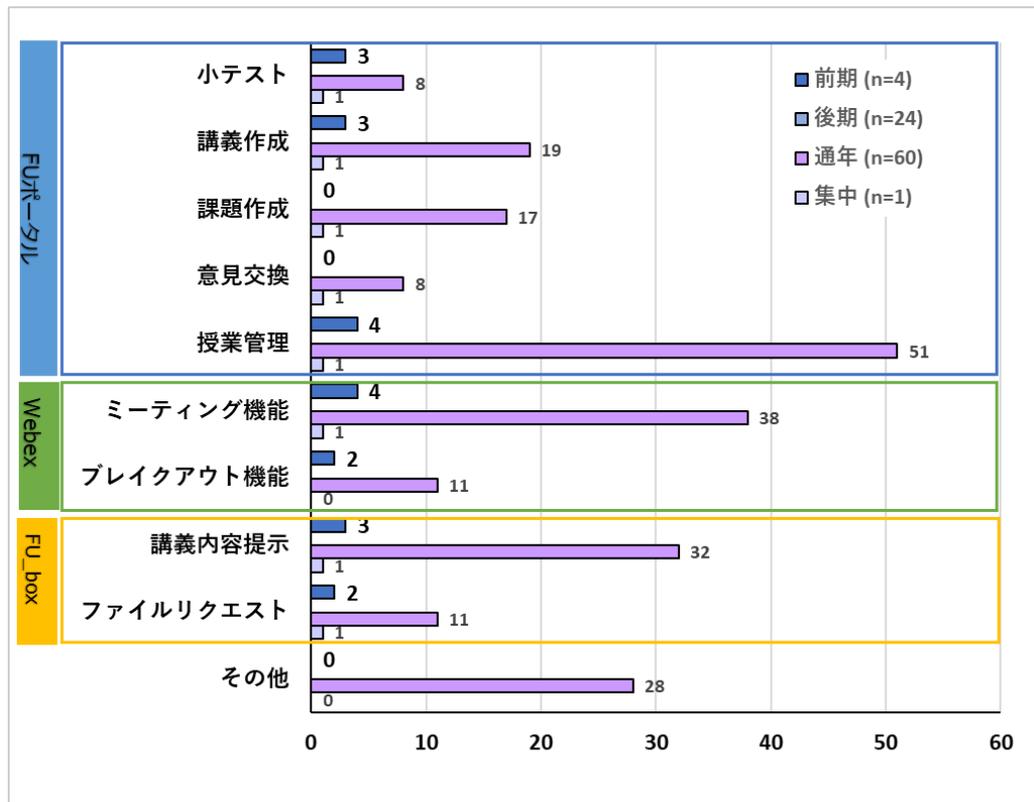
講義



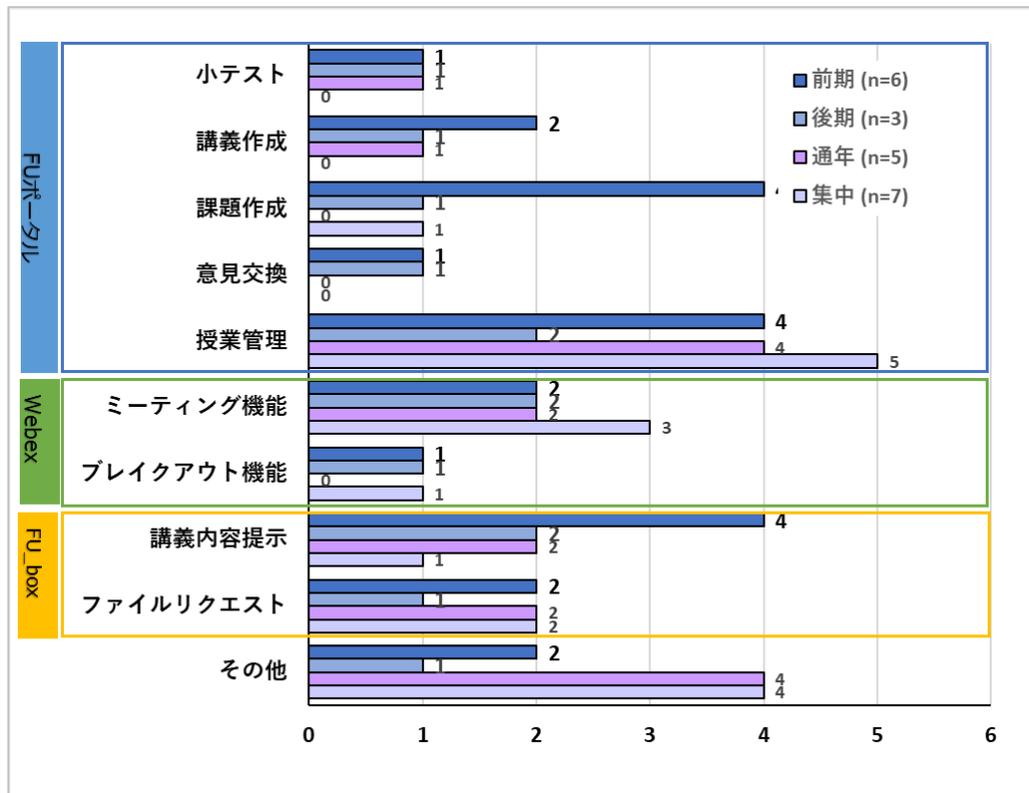
実技



演習



実習・実験



6 研究活動

(1) スポーツ科学部

上原 吉就

■ 福奏プロジェクト

福岡大学 研究研究ブランディング事業として行われている「福奏プロジェクト」における3つのチームの内（Team 2：幼少期～青年期 学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム、Team 3：中高年期～老年期 社会活動支援・活力ある高齢者の研究チーム）に関してスポーツ科学部は中心的な役割を果たしている。

「Team2：No 2 小学校の体育授業の支援」

教員のみならず、学部学生が体育授業を支援し、運動が苦手な子も含めて全員が飽きずに授業に参加でき、運動能力を高めるためのプログラムを開発。学生が小学校の体育の授業に携わることにより、責任感が身に付くと同時に教えることの面白さを知り、卒業後の進路として教員を選ぶ学生も増えてきた。小学校の教員にとっても、最新のトレーニング理論や授業の進め方を学ぶよい機会になっており、現在は、教員向けの実技研修も行っている。

「Team3：No 1 スロージョギング®による安全かつ効果的な予防プログラムに関する研究」

本研究チームでは、これまでの知見を応用して、スロージョギング®をさらに普及させるための取り組みを行います。その一つが2泊3日の「ヘルスツーリズム」。食品会社、旅行会社、スポーツクラブ、企業の健康保険組合などと協働し、運動（スロージョギング®）、食事、観光を組み合わせたプログラムの開発を行っている。また、嘉麻市と連携してヘルスツーリズムに薬膳料理を導入した健康増進プログラムも立ち上げを行っている。

■ 共同研究プロジェクト

・福岡大学とミズノ株式会社との連携・協力協定に基づき、その中心となるスポーツ科学部では、以下の研究プロジェクトが進行中であり、一部成果が出ている。

「ベンディング作業員に対する肉体労働サポートツールウェアの導入」では、自動販売機に飲料を充填する作業員（ベンディング作業員）に対して、肉体労働サポート機能（腰痛防止ベルト等）を備えたツールウェアを開発することで身体的な負担を軽減し、慢性的な職業病や身体の不調などの労働環境を改善することを目指した研究を行っている。その成果として大手飲料メーカーであるコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社は同社の全てのベンディング作業員に対して、ミズノ製作業靴とコンプレッションウェアを導入することも決定している。

「水中トレーニングプログラムおよび製品の効果に関する研究」では、アスリートを対象として水中運動プログラムの開発とその効果の検証を行っている。

「保温機能付きウェア着用が運動後の筋温に及ぼす影響」では、トレーニング中あるいはトレーニング後での筋温コントロールが、どのように筋パフォーマンスへ影響を及ぼすか、その効果を検証している。

・ヨネックス株式会社との共同研究では、テニスラケットとテニスシューズの開発が開始している。

- ・ 旭化成株式会社との共同研究では、「ウェアラブル端末を用いた新たな有酸素能力評価法に関する研究」として、本学単独所有特許を応用し、ウェア型端末を用いた非侵襲的な新規の心肺能力評価システムの開発を開始している。

(2) スポーツ健康科学研究科

上原 吉就

まず、スポーツ健康科学研究科博士課程後期では、高江理恵氏が「地域高齢者の身体組成及び身体機能に関する研究」のテーマで、イスマイルシャリマン氏が「フットサルにおけるフットウェアとコートサーフェイスとの相互作用の解明」のテーマでそれぞれ学位審査の最終試験に合格し、博士の学位を取得した。指導の労に対して心より感謝申し上げたい。

博士課程前期では、8月に中間報告会、2月に修士論文発表会は何れも新型コロナウイルス感染症流行のために Webex を用いたオンライン開催で行われ、最終的には7名が最終試験に合格した。その中で本田紘基氏が、参加した教員の採点で最高点を獲得し、優秀発表賞を受賞した。

国際交流に関しては、釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流会が会場を隔年ごとに持ち回ることにより行われている。本年度は2020年11月に釜山国立大学で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症流行のために残念ながら中止となった。

7 FD・SD 活動

(1) シラバス点検

藤井 雅人

スポーツ科学部では、毎年教務委員が中心となって、非常勤講師を含むスポーツ科学部専門教育科目担当教員から提出された次年度用の全シラバスの確認作業を行っており、2020年度で11年目を迎えることとなった。

令和3(2021)年度シラバスの確認作業は、2021年2月7日に、スポーツ科学科の確認作業担当者(森口哲史、今村律子、田場昭一郎)、健康運動科学科の確認作業担当者(藤井雅人、山口幸生、長島和幸)、および確認作業担当者作成成分確認者である築山泰典(教務委員)によって実施された。その際、シラバスチェック委員会が作成した「2021年度シラバスチェックのポイント」を参考に、「FUプラスアップ授業に関する記述(スタートアップまたは中間ふりかえり)」「専門教育科目の到達目標」「授業時間外の事前事後学習時間の記載」「成績評価基準および方法」等の項目について確認を行った。「FUプラスアップ授業の具体的内容が示されていない」「授業時間外の事前事後学習時間の記載がない」「評価の基準および配分の記載がない」などのシラバスについては、科目担当者に修正の上、再提出するよう求めた。その後再提出されたシラバスの修正箇所についての確認を行い、2月18日までに全ての確認作業を完了した。

こうした確認・修正の取り組みもあって、スポーツ科学部専門教育科目のシラバスは全体的に見て、「シラバス作成のためのガイドライン」に則って適切に記載された内容に統一された。

また、共通教育科目における保健体育科目のシラバスについても、共通教育研究センターの依頼を受けて、2021年2月9日までに、確認作業担当者である下園博信および霜島広樹、確認作業担当者作成成分確認者である藤井雅人(共通教育研究センター長補佐)が確認作業を行った。その際に修正が必要と判断されたシラバスについては、科目担当者に2月26日までに修正の上、再提出するよう依頼した。再提出されたシラバスは3月8日にウェブ上で公開された。

スポーツ健康科学研究科の「大学院シラバス記載内容に係るチェック作業」は、チェック作業担当者である上原吉就および布目寛幸、チェック作業担当者作成成分確認者である川中健太郎(研究科長)によって実施された。その際に記載に不十分な箇所があるとされたシラバスについては、必要に応じ当該作成者に記載内容の改善等の要望を行うなどした。その後再提出されたシラバスの修正箇所の確認を行い、2021年3月19日までに全てのチェック作業を完了した。

(2) 学外研修参加

藤井 雅人

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、スキーおよびスケートの研修会の開催が中止となったこともあり、学外実技研修参加者はいなかった。

また、下記のように、複数人の教員がオンラインフォーラムの形式による2つの研修会に参加した。ただし、教授会報告等での情報の共有はなされなかった。

①公益社団法人全国大学体育連合主催「第9回大学体育スポーツ研究フォーラム」(2021年2月22日:オンライン開催)に、柿山哲治、藤井雅人の2名が参加した。

②公益社団法人全国大学体育連合九州支部/九州地区大学体育連合主催「ー2020(令和2)年度春期ー体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」(2021年3月13日:オンライン開催)に、柿山哲治、藤井雅人、古瀬裕次郎の3名が参加した。なお、古瀬は「COVID-19影響下での大学体育授業実践」をテーマとする本フォーラムにおいて、福岡大学における共通教育としての保健体育科目について、生涯スポーツ演習の遠隔授業の実践報告を行った。

(3) ワークショップ、研修会の開催

藤井 雅人

2021年1月15日に、田辺明博氏(株式会社リアセック執行役員)および山口幸生氏(本学スポーツ科学部教授)を講師とする「PROG コンピテンシーテストの結果をスポーツ科学部独自アンケートと紐づけて分析する」と題した令和2(2020)年度スポーツ科学部主催FDワークショップを開催した。本FDワークショップは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「Webex Meetings」を利用したLIVE配信によって実施した。本FDワークショップには、スポーツ科学部所属の講師以上の専任教員および助教・助手のほぼ全員に該当する計55名(2名のみ欠席)、および同学部事務職員2名が参加することとなった。また、医学部教育開発支援機構委員1名、教育開発支援機構から関係教員4名および同機構事務職員3名の参加もあり、本FDワークショップへの参加者総数は65名となった。なお、本FDワークショップは、大学からの「FD活動推進経費」を用いて開催された。

2015年度以降6年連続でコンピテンシーテストが主題となることになった、このスポーツ科学部主催FDワークショップでは、まずコンピテンシーテストの結果を様々な観点と関連づけて精緻に分析し、そこから見える分析結果を用いて具体的な教育方法に関するヒントを探るという方法論についてディスカッションした昨年度のFDワークショップの成果を踏まえて、今年度初めてリアセック社の協力の下で1年生に対しコンピテンシーテストと並行して実施した本学独自アンケートと同テストとを紐づけた分析結果について山口氏にご講演いただき、今後のFD活動の展開への示唆を検討することが主目的とされた。また、その点に先立って、昨年度と同様に、田辺氏による講演を通して、2020年度のコンピテンシーテストの結果に関わる全体的傾向を把握し、その特徴を探ることも目指された。

まず、田辺氏には、コロナ禍において原則遠隔授業で学ぶ大学生活を送らざるを得なかったスポーツ科学部1・2年生の同テスト結果の特徴や、昨年度との経年的比較分析から見える傾向などについてご講演いただいたが、今年度1年生および2年生のコンピテンシーが例年と比較して高かったという、我々学部教員にとって大変安堵する結果が得られることとなった。そして、山口氏の講演からは、昨年度のFDワークショップで課題とされた学生のそれぞれの属性に応じたコンピテンシー特性の分析結果が明らかになり、スポーツ科学部がどのような学生によって構成され、彼らの持つどのような属性がどのようなコンピテンシー特性と関わっているのか、さらにそうした学生に対する教育活動をどのように展開していくべきであるのかが、これまでよりもかな

り具体的にイメージできるようになった。例えば、競技力向上をより重視する学生と将来のための勉強をより重視する学生といった大きく 2 つのタイプの学生たちが、相互に交流し、それぞれの能力・学力や優れたコンピテンシーを学び合う場や機会をいかにデザインしていくのが、スポーツ科学部の今後の教育活動の展開にとって極めて重要な課題とされた。

なお、本年度のスポーツ健康科学研究科主催 FD ワークショップは開催されなかった。

(4) 授業アンケート

藤井 雅人

2020 年度の授業アンケート FURIKA は、前期 7 月 1 日～8 月 28 日、後期 12 月 1 日～1 月 31 日の期間で実施された。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、両学期の授業は原則的に遠隔形態で開講されたため、FURIKA もまた例年とは異なり、遠隔授業を対象として行われた。

「2020 年度前期授業アンケート資料集（学外公開版）」によれば、スポーツ科学部専門教育科目についての「回答率」（回答学生数／履修学生数）は 56.6%（大学全体の回答率は 47.9%）、「実施率」（回答率 30%以上の回答科目／対象科目）は 97.1%（大学全体の実施率は 81.7%）であり、前年度前期と比較して、前者は 15%弱低下し、後者は逆に 10%強上昇した。また、学部専門教育科目のシラバスに示されている到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」を、スポーツ科学部ディプロマポリシーに即して見てみると、平均して「知識・理解」4.2、「技能」4.2、「態度・志向性」4.2 となり、非常に高い値を示した（5 点が最高点）。また、授業への主体的・積極的な取り組みを示す「積極性」については 4.3、授業内容の理解に関わる「理解度」についても 4.3 となり、到達度と同様に高値となった（5 点が最高点）。

次に、「2020 年度後期授業アンケート資料集（学外公開版）」によれば、スポーツ科学部専門教育科目についての「回答率」は 39.2%（大学全体：39.9%）、「実施率」は 60.5%（大学全体：59.2%）であり、前期よりもかなり低下している。また、シラバスの到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」は、「知識・理解」4.2、「技能」4.3、「態度・志向性」4.3 となり、前期と同様に非常に高い結果となった。さらに、前述の「積極性」および「理解度」についても、ともに 4.3 と高値を示した。なお、前後期ともに、共通教育科目における保健体育科目を対象とする FURIKA の結果は示されていない。

以上のように、2020 年度前・後期の FURIKA の全体的な結果からは、遠隔授業下にあったにもかかわらず昨年までと同様に、スポーツ科学部生が専門教育科目の授業での「到達度」「積極性」「理解度」に関わる自らのパフォーマンスを高く評価していることがわかる。その要因としては、遠隔授業下での各教員の授業実践が適切であったと思われること（前・後期ともに、「遠隔授業に関する改善点」についての回答数の 50%以上が「特になし」）、授業時間外で課題などに取り組む学習時間が明らかに増えたと考えられること（1 科目ごとの平均学習時間：2019 年度後期は大学全体で 31.2 分およびスポーツ科学部で 36.4 分であったのに対して、2020 年度前期・後期いずれも大学全体で 80%以上が 30 分以上と回答）などが考えられる。ただし一方で、遠隔授業下での FURIKA の実施ということもあって、回答率そのものが例年と比較して相当に低いため、回答者の属性なども考慮した慎重な考察は必要であろう。

また、昨年度も指摘した後期の実施率の低さは、2020年度後期も改善されなかった。ただし、前期も含めて、ほとんどの場合、当該科目の受講者総数に占める回答者の割合が30%未満であることにより未実施科目に分類されているので、担当教員による回答率の増加のための働きかけ次第で実施率は上昇するものと思われる。

このFURIKAの特徴の1つとして、担当教員、学位（教育）プログラム責任者の教員、学生にそれぞれきめ細やかなフィードバック情報をウェブ上で提供していることが挙げられるが、2020年度も学生や教員によってそうした情報が十分に活用されているとはいいがたい状況にある。とりわけスポーツ科学部生によるフィードバック情報の閲覧率は非常に低いままである。まずは、フィードバック情報を閲覧し、その情報を積極的に活用するよう学生に働きかけることが重要であろう。担当教員については、依然としてフィードバック情報をスポーツ科学部全体で組織的・体系的に活用するに至っていないこともあり、個々の取り組みに依存しているところがある。今後の改善が必要であろう。ただ一方で、非常勤講師を含む学部専門教育科目および保健体育科目の担当者に、「この授業であなたが学んだことは何でしょうか」という質問に対する受講生の記述回答（いわゆる「学生コメント」）の公開選択（2019年度後期より義務化）、およびその学生コメントを受けての「教員コメント」の積極的な記入について説明・依頼したところ、前者については前・後期ともに両科目100%の公開率を達成し、また後者についても昨年度と比較して記入率がかなり上昇する（学部専門教育科目は前期56.2%、後期70.6%；保健体育科目は前期86.2%、後期74.2%）など、担当教員によるフィードバック情報の活用の意識は高まってきていると評価できよう。こうした成果が、フィードバック情報を閲覧する学生に深い学びや新しい気づきが得られるきっかけとなるよう期待される。

なお、2020年度前期授業に関して、9月1日～9月30日にかけて、全在生を対象にウェブ方式で教育開発支援機構による『遠隔授業下での学びの実態に関するアンケート』が実施され、352名（29.0%）のスポーツ科学部生が回答した。そこでは、70.6%が学部・学科の遠隔授業に関する取り組みや対応に「満足している」「やや満足している」としており、「遠隔授業で感じたこと」についての記述内容も含めて、学生の肯定的な反応が窺える結果となった。

また、スポーツ健康科学研究科も12月4日～1月8日にかけて、博士課程前期および後期の全在生21名を対象にFDアンケート調査を実施した。そこでは、「研究指導満足度」について90%強が「大変満足」「満足」と回答し、20%弱が「不満」「大変不満」とした昨年度から大きく改善された。特に「大変満足」が、昨年度（40%強）から大幅に増加（60%弱）している点が目につく。また、「特論満足度」については、90%強が「大変満足」「満足」と回答している。両項目の合計割合は昨年度から若干減少してはいるものの、「大変満足」については20%強から40%強へと著しく向上した。

8 地域連携・社会貢献・高大連携

小牟礼 育夫・築山 泰典・田場 昭一郎

■地域連携・社会貢献

1. 各教室の実施状況

令和元年度、エクステンションセンター事業である福岡大学市民カレッジの参画で開講した講座数は8講座、受講者数489人であったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開講が予定されていたイベントは全て中止となった。なお、予定されていた各種イベントの詳細は以下の通りである。

《市民カレッジ・スポーツ講座》

◇キッズ・スポーツ教室（中止）

前期開催：キッズ体操教室・キッズサッカークラブ・キッズバレーボール教室

後期開催：キッズ体操教室・キッズサッカークラブ・キッズ陸上教室

◇一般・スポーツ教室（中止）

前期開催：女性のための元気体操教室

後期開催：女性のための元気体操教室

《その他》

◇小学生対象サッカー教室（中止）

日時：6月6日（土）、6月13日（土）、8月22日（土）、10月24日（土）

場所：福岡大学サッカー場

概要：地域とのスポーツ交流を目的とした、元プロ選手による小学生のサッカー教室

2. 授業支援および事業企画

令和2年度も、例年通りに福岡市との連携協定に基づく地域・社会貢献活動では教育支援プロジェクトとしてサッカー、水泳、新体力テストを中心とした小学校の授業支援が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受けて、開講を予定していたイベントはほとんど中止となった。このような状況において「アイランドシティ健康のまちづくり事業」は、社会情勢を鑑みて、日程を調整して運動教室を計13回実施し、「スロージョギング教室」は、身体活動研究所のホームページ、日本スロージョギング協会のホームページ、さらにYouTubeチャンネルにより、トークショーとスロージョギングリレーに関する動画を配信した。なお、予定されていた各種イベントの詳細は以下の通りである。

《授業支援（福岡市との連携協定：私立大学研究ブランディング事業）》

◇小学校新体力テスト支援（中止）

日時：4月21日（火）、6月2日（火）～6月11日（木）

場所：那珂小学校、東住吉小学校、塩原小学校

概要：児童の体力の把握と向上を目的とし、地域のスポーツ教育の発展や啓発に貢献する

◇小学校水泳授業支援（中止）

日時：6月予定

場所：那珂小学校、横手小学校、東住吉小学校

概要：水泳の苦手意識を克服して泳ぐ楽しさを伝え、また学生の社会教育の実践力を培う

◇小学校スノーケリング体験教室（中止）

日時：7月予定

場所：横手小学校、東住吉小学校

概要：水泳の教育的効果を目的とし、児童の水泳嫌いを克服して泳ぐ楽しさを体感する

◇小学校サッカー授業支援（中止）

日時：2月予定

場所：那珂小学校、横手小学校

概要：児童の体力向上を目的とし、専門的指導を通してサッカーの楽しさに触れる

《事業企画・協力》

◇アイランドシティ健康のまちづくり事業（運動指導と体力測定）

日時：運動教室を月1~2回開催（令和2年度：計13回実施）

4~6月の期間、1/25、2/8、2/22、3/8（中止）

体力認知機能検査を年1回開催（中止）

場所：福岡市総合体育館

概要：生活習慣病や認知機能低下で介護リスクの高い高齢者対象の運動プロジェクト

◇那珂川市との高齢者の運動による健康づくり推進普及連携事業（中止）

日時：年1回開催予定

場所：那珂川市役所（保健センター）

概要：ニコニコペース運動を活用した健康づくりと体力向上の推進事業

3. その他

◇福岡大学フットボール・カンファレンス2020（中止）

日時：7月予定

場所：第二記念会堂、福岡大学サッカー場

概要：地元サッカー界のレベルアップを目的とした講演会および実技クリニック教室

◇ふれあいスポーツフェスタ2020（中止）

日時：12月予定

場所：福岡大学サッカー場

概要：健常者と障がい者の交流、地域と協力して障がい者スポーツの支援に取り組む

◇福岡大学招待中学校女子バレーボール大会（中止）

日時：12月予定

場所：第二記念会堂

概要：大会の中でリーダーシップと技術力向上を図り地域のスポーツ交流を推進する

◇スロージョギング教室

日時：インターネットによる動画配信

場所：身体活動研究所・日本スロージョギング協会のホームページ、YouTube チャンネル

概要：スロージョギングリレーとトークショーに関する動画を配信

◇福岡少年院のサッカー指導（中止）

日時：2月予定

場所：福岡少年院グラウンド

概要：在院者を対象に、体育指導の一環としたサッカー部による技術指導と交流

◇平成外環通りウォーキング大会（中止）

日時：3月予定

場所：三尾池公園 → ニコニコパーク → 桧原桜公園 → 花畑園芸公園

概要：外環通りの利用促進を目的として市民の健康増進とコミュニティの活性化を図る

■ 高大連携

高大連携事業は、主に福岡大学附属大濠高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、スポーツコミュニケーションコースがある福岡県立早良高等学校と行われている。また、令和元年からは福岡市立四高等学校との連携も始められた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に取り組み内容を縮小せざるを得ない状況であった。令和3年度に附属若葉高等学校は共学校としての完成年度を迎える。積極的な連携体制の在り方を検討することも必要である。

【附属大濠高等学校】

9月 附属大濠高等学校模擬講義（2年生総合的な学習「福大講座」）および福岡市立高校高大連携プログラムにおいて、本学部教員が60分の模擬講義を行なった。

【附属若葉高等学校】

8月 本学部教員が1年生を対象に模擬講義を行なった。

10月 本学部教員が2年生を対象に模擬講義を行なった。

12月 本学部教員が1年生を対象に模擬講義を行なった。

また、複数の部活動において練習等の協力体制が構築されている。

【福岡県立早良高等学校】

今年度、具体的な連携事業は実施できなかったが、次年度以降、出張講義、教育実習生の受け入れ、運動部間での交流を念頭に、検討していきたい。

9 国際交流

布目 寛幸

■ 国際センター関連事業

1. 学部生に対する情報提供
コロナウイルス蔓延のため行われなかった。
2. 国際センタープログラムを活用した交換留学・海外研修
 - ・交換留学；スポーツ科学部 0名
 - ・海外研修；スポーツ科学科 0名、健康運動科学科 0名、計 0名
3. GAP 連携のインターミディエイト・イングリッシュ GE クラスを履修した学生の短期海外研修
 - ・スポーツ科学科；0名、健康運動科学科；0名
4. 福岡大学国際交流チーム(FIT)登録者
2020年度 スポーツ科学部；0名

■ 大学間学術協定 MOU、教員海外研修

1. 大学間学術協定事業は行われなかった。
2. 2020年度教員海外短期研修
コロナウイルス蔓延のため行われなかった。

■ 留学生関係

1. 外国人留学生数
大学院博士後期課程；1名（マレーシア）が過程博士を取得し、マラ工科大学へ Senior Lecturer として復職した。
2. 学部留学生入学試験
スポーツ科学部；志願者0名、合格者0名、入学者0名
3. 短期留学生の受け入れ
韓国より1名の希望があったが、コロナウイルス蔓延のため中止となった。

■ 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

1. アスリート・コーチ育成プログラムによる海外研修
コロナウイルス蔓延のため中止となった。

<スポーツ健康科学研究科と釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流>
コロナウイルス蔓延のため中止となった。

10 教職課程

柿山 哲治・今村 律子

■ 教職課程登録者数（2020年度）

学部	学科	20台	19台	18台	17台以前	合計
スポーツ科	スポーツ科	145	110	86	2	519
	健康運動科	42	36	28	1	155
合計		187	146	114	3	674

■ 社会教育主事課程科目登録者数（2020年度）

学部	学科	20台	19台	18台	17台以前	合計
スポーツ科	スポーツ科	2	1	0	0	3
	健康運動科	1	0	0	0	1
合計		3	1	0	0	4

■ 教員免許状取得状況（2020年度）

学部	学科	卒業生	免許状取得者数	免許状取得率
スポーツ科	スポーツ科	204	78	38.2%
	健康運動科	73	33	45.2%
合計		277	111	40.1%

■ 教員免許状（一種）一括申請者数（2020年度）

学部	学科	申請者数	中一種	高一種	申請件数
			保健体育	保健体育	
スポーツ科	スポーツ科	78	53	78	131
	健康運動科	33	27	33	60
スポーツ健康科学研究科		3	2	3	5
科目履修生		3	2	3	5
合計		114	86	113	199

■ 教員免許状更新講座

新型コロナウイルス感染症のため、講座は中止となった。

■ 教員採用試験合格者数

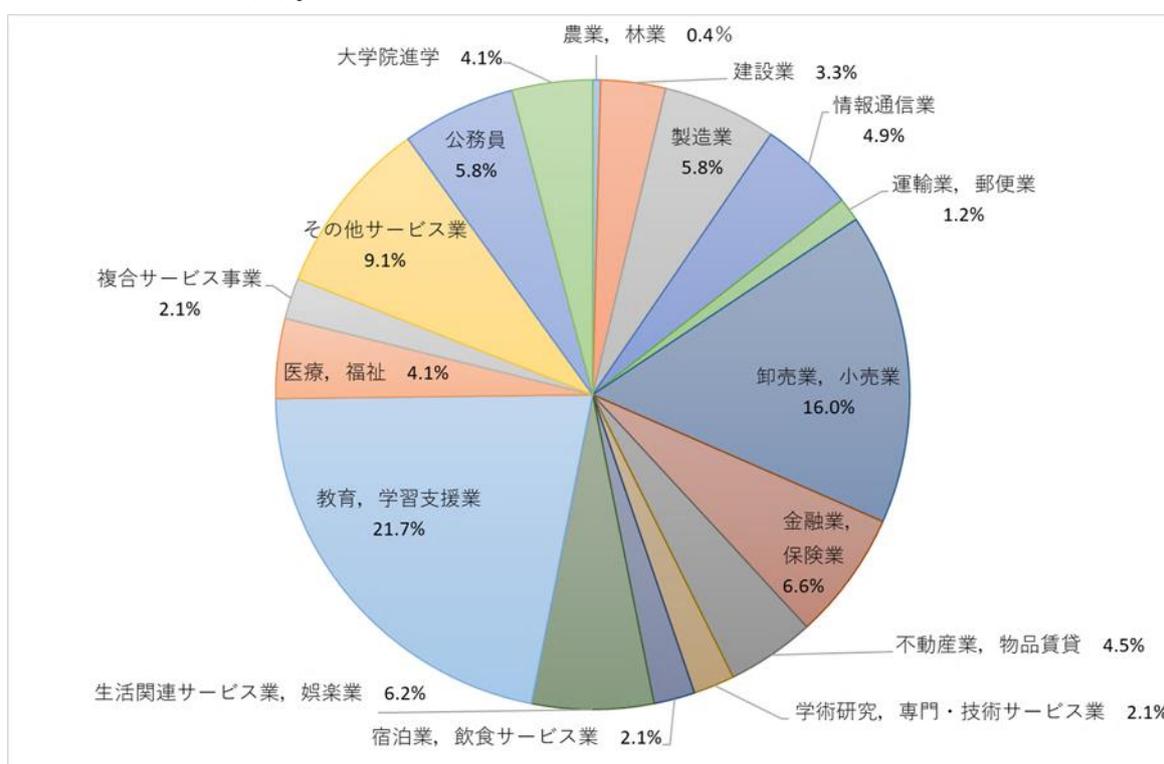
5名（福岡県中学校2名、福岡県小学校1名、佐賀県小学校1名、長崎県中学校1名）

11 就職・進路

(1) スポーツ科学部

野口 安忠

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大で企業の採用活動に大きく影響を及ぼしたものと考えられ、全国大卒求人倍率は1.53倍と0.3ポイント低下し(リクルートワークス研究所調べ)、本学に寄せられた求人件数も16,355件と5.1%減少した。また、就職率は大学全体で96.0%(1.2%減少)、本学部においても全体で98.7%(0.5%減少)、男子99.4%(同様)、女子97.4%(13%減少)と昨年度に比べて若干減少した。なお、就職先の業種別内訳(大学院含む)については円グラフに示したとおりである。



令和2年度 スポーツ科学部における就職先の業種別内訳

◇主な就職先

三軌建設(株)、トヨタホーム九州(株)、(株)ワコール、久光製薬(株)、湧永製薬(株)、JFEスチール(株)、大同特殊鋼(株)、リンナイ(株)、日本ハードメタル(株)、今治造船(株)、(株)西日本新聞社、九州旅客鉄道(株)、稲畑産業(株)、九州三菱電機販売(株)、(株)南陽、アルフレッサ(株)、正晃(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、福岡トヨタ自動車(株)、ゼビオ(株)、(株)ヒマラヤ、(株)鹿児島銀行、(株)熊本銀行、(株)西日本シティ銀行、(株)福岡銀行、福岡県信用農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、(株)えん、(株)九州リースサービス、ザ・テラスホテルズ(株)、アイ・ケイ・ケイ(株)、(株)サニクリーン九州、(学)佐賀龍谷学園、(学)福岡大学、国家公務員共済組合連合会 浜の町病院、エフコープ生活協同組合、福岡県民共済生活協同組合、メディアファイブ(株)、総合警備保障(株)、(株)にし

けい、国税専門官、刑務官、みやま市役所、宗像市役所、佐賀県警、福岡県警、大牟田市消防本部、佐賀県教員（小学校）、福岡県教員（小学校）、福岡県教員（中学校）

（２）スポーツ健康科学研究科	上原 吉就
-----------------------	-------

前期課程修了者の就職先は、株式会社 YE DIGITAL (1名)、長崎県公立教員学校 (1名)、特定医療法人財団 博愛会(1名)、株式会社クレ・コーポレーション(1名)、福岡大学 (研究生1名、研究支援者1名)であった。

12 広報推進

小牟礼 育夫・川中 健太郎・下園 博信・今村 律子・森下 奈央

■ 学部ホームページ更新

2020年度、学部ホームページの情報更新作業は、年次更新（「トップ選手を輩出」卒業生と現役学生の確認）、随時更新（TOPICS）が中心となっている。

2020年度 カテゴリー別更新件数（単位：件）*述べ件数

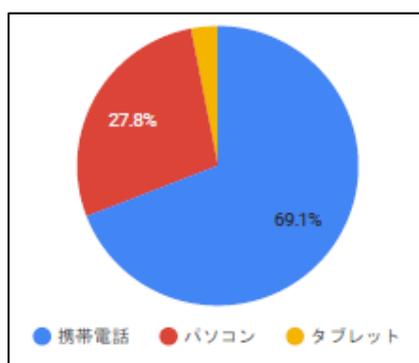
カテゴリー	入試情報	部活動	教育・研究	学生・教員の活躍	お知らせ	試合結果	合計
更新件数	0	1	4	1	10	0	16

2020年4月1日より、アクセス解析ツール（Google アナリティクス）を使用し、本学部サイトのアクセス状況をまとめた。入試情報サイトへのアクセスを目標項目とした場合のアクセス状況、デバイス別アクセスと都道府県別アクセスランキングを下記に示す（2020/4/1～2021/3/31 調べ）。



【目標】入試情報サイト到達（スポ科 HP 画面下の入試情報サイトボタンをクリック）

日別アクセスユーザー数と目標完了数



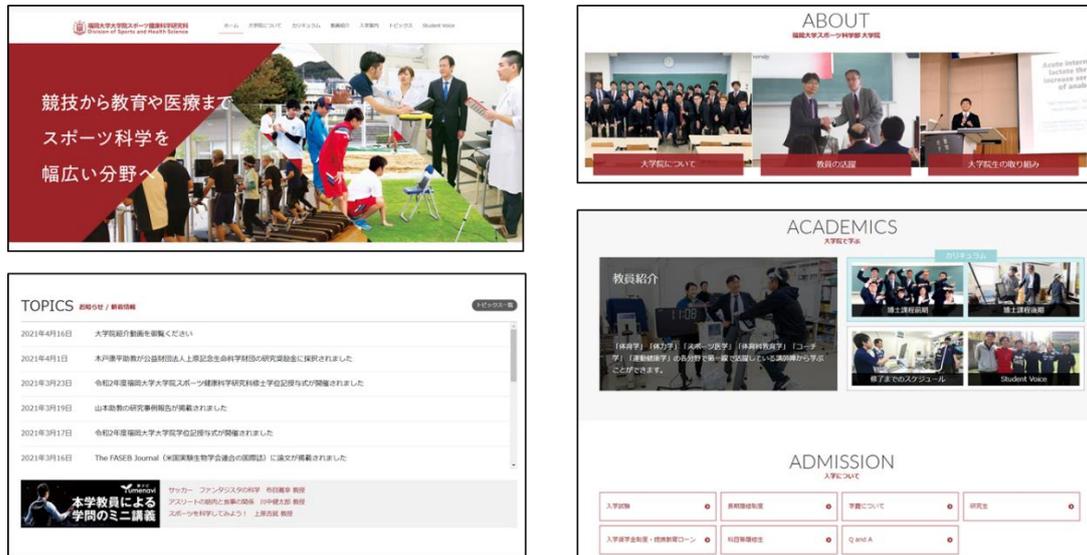
デバイス別アクセスの割合

都道府県別アクセスランキング（目標到達順）

都道府県名	ユーザー	目標1の完了数	目標1のコンバージョン率
1. 福岡県	12,262	6,176	37.12%
2. 大阪府	5,458	2,199	33.6%
3. 東京都	4,126	1,378	28.47%
4. 神奈川県	2,817	885	27.29%
5. 熊本県	1,179	670	44.67%
6. 広島県	974	571	43.99%
7. 長崎県	878	504	45.32%
8. 佐賀県	712	501	48.31%
9. 山口県	749	460	44.66%
10. 愛知県	1,171	418	30.87%

■ 大学院スポーツ健康科学研究科ホームページ更新

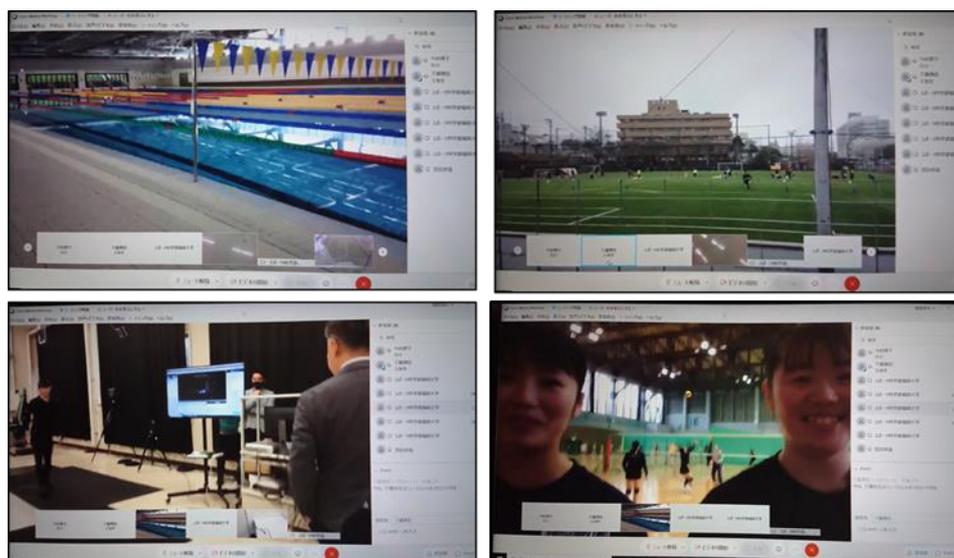
2020年7月16日に福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科のホームページのリニューアルを実施した。随時更新（TOPICS）では、行事・イベント、学会発表、論文発表・論文掲載、研究会開催、大学院生の取り組み、その他、教員の活躍などのカテゴリーが設定されている。学部との連携を図り、大学院の研究環境や入試情報など今後も充実させていく。



大学院スポーツ健康科学研究科サイト（一部紹介）

■ 入試広報活動ーオンライン施設紹介 遠隔オープンキャンパスプロトタイプ

2021年3月に、福工大附属城東高校で模擬授業中に初のオンライン（リアルタイム配信システム Webex を使用）での施設紹介を行った。新プール、サッカー場、総合体育館、第二記念会堂など、実際には一度に見学できない場所にあるため、効果的であったと思われる。練習風景も見る事ができ、母校の卒業生のインタビューと後輩たちへのエールは好評であった。



オンライン施設紹介遠隔オープンキャンパスプロトタイプ（一部紹介）

■ 学部広告掲載一覧

一般社団法人日本体育学会第 71 回大会	2020/9/7～9 日開催 (同時双方向オンライン)	A4 白黒 1 ページ
----------------------	--------------------------------	-------------

13 外部獲得資金実績

上原 吉就

科学研究費 (R2年度)		(含間接経費)	
研究種目	代表者名	研究課題	金額 (円)
基盤研究 (B)	川中 健太郎	除脂肪量増加に有効な食事処方に関する基礎的研究	8,840,000
基盤研究 (B)	檜垣 靖樹	エピジェネティック 修飾による運動適応機構の解明	4,680,000
基盤研究 (B)	上原 吉就	運動による骨格筋高比重リポ蛋白 (HDL) 産生 システム の発動とその作用解明	6,890,000
基盤研究 (C)	柿山 哲治	マリアナ・ヤング 女史が明治期に導入した Physical Culture の解明	1,170,000
基盤研究 (C)	布目 寛幸	足底装具 (インソール) による スポーツパフォーマンス への効果の解明	780,000
挑戦的研究 (開拓)	檜垣 靖樹	身体運動とうま味で奏でる スポーツ と健康の価値 の創造	4,810,000
挑戦的研究 (萌芽)	川中 健太郎	不活動由来に増加して インスリン 抵抗性を惹起する筋細胞内メッセンジャーの探索	3,250,000
若手研究	古瀬 裕次郎	地域高齢者の認知症及び認知機能低下リスク要因の検討 — 10年前向きコホート研究 —	1,040,000
若手研究	西田 智	スポーツ 現場で有用な ハムストリング 肉離れ重症度評価法の検討	2,600,000
若手研究	木戸 康平	単回レジスタンス運動で インスリン 感受性を改善するために — 分子制御からの アプローチ	1,434,154
若手研究	※小松 知広	運動による新規中性脂肪低下 メカニズム の解明 ～ 骨格筋アポ蛋白 C2 システム を中心に ～	1,690,000
研究活動スタート支援	山本 泰暉	人工甘味料による骨格筋不全 メカニズム の解明および自発運動による改善効果の検討	1,430,000
研究活動スタート支援	川上 翔太郎	腎臓への負担を最小限に抑える最適な運動時間の探索 — 腎血行動態に着目して —	1,430,000
研究活動スタート支援	西田 智	ハムストリング 肉離れ再発における複合要因の解明 — 線維化した筋組織と他要因の関連 —	1,430,000
研究活動スタート支援	山本 泰暉	人工甘味料による骨格筋不全 メカニズム の解明および自発運動による改善効果の検討	1,100,000

※身体活動研究所：ポストドクター

受託研究 (R2年度)

依頼者	研究代表者	研究課題	金額 (円)
学校法人 慶應義塾	檜垣 靖樹	高齢者の虚弱化の予防・先送りに資する総 エネルギー 消費量の評価法に関する研究	1,040,000
大陽日酸 (株)	檜垣 靖樹	二重標識水法のサンプル分析	3,300,000
中村学園大学	檜垣 靖樹	メタボリック 症候群の個々人の心音に基づく運動 アドバイスシートの開発	3,000
美津濃 (株)	道下 竜馬	水中 トレーニングプログラム および製品の効果に関する研究	1,131,889

研究助成寄附金 (R2年度)

機関名	研究代表者	研究課題	金額 (円)
ヨネックス (株)	布目 寛幸	研究助成のため	1,300,000
第一三共 (株)	上原 吉就	研究助成のため	700,000
サノフィ (株)	上原 吉就	研究助成のため	1,000,000
アミカス・セラピューティクス (株)	上原 吉就	研究助成のため	500,000
アミカス・セラピューティクス (株)	上原 吉就	研究助成のため	1,000,000
大日本住友製薬 (株)	上原 吉就	研究助成のため	300,000
(公財) 上原記念生命科学財団	木戸 康平	研究助成のため	300,000
ミズノ (株)	布目 寛幸	研究助成のため	3,000,000

共同研究

(R2 年度)

機関名	研究代表者	研究課題	金額 (円)
美津濃 (株)	上原 吉就	温熱とリカバリの関係解明に関する共同研究等	4,994,133
フジッコ (株)	檜垣 靖樹	大豆たんぱく質摂取と運動の併用がマウス骨格筋に与える影響	2,000,000
旭化成 (株)	上原 吉就	ウェアラブルデバイスを用いた運動強度評価に関する研究	0
京都大学	檜垣 靖樹	iPS 細胞由来の骨格筋細胞における核とミトコンドリアの共遊走機構の解明	0
京都大学	上原 吉就	iPS 細胞由来の心筋・骨格筋細胞におけるアポリポ蛋白発現調節機構の解明とミトコンドリア機能への影響	0

14 リスクマネジメント委員会

乾 眞寛・日高 英史

学部内に「リスクマネジメント委員会」が設置されてきた経緯は、2012年12月の女子指定寮「あしかり荘」の火災事故により、本学部生1名が死亡する痛ましい出来事がきっかけであったと記憶している。私自身は当時学生部委員でもあり、被害者学生やご家族、関係する運動部学生の聞き取り調査や心のケア、賠償問題、再発防止策、報告書作成など長期間にわたり非常にデリケートな問題に対処した。その際、学部内に事件・事故・災害等に対して緊急を要する判断や迅速な初期対応する委員会が必要であるという認識から2013年度から学部内に「リスクマネジメント委員会」が設置された。

その後は、2016年の熊本地震の際の安否確認や被災学生の調査などを行ってきた。

2020年度は、年度当初から新型コロナウイルスへの学部対応が求められ、過去に経験したことのない状況下で、学部の教職員、学生、そのご家族の安全・安心、生命を守るために学部長、日高事務室長と共にコロナ対策の最前線で情報収集と感染対策管理、陽性者情報の確認と対応策の検討、学生課・保健所との連絡など、スピード感を持って具体的な判断を行い関係各部署に連絡を取り、連携して問題解決を実行していくことが求められた。

また、前期の実技対面授業(水泳)の再開に向けての学部全体の支援、協力体制づくりや安全マニュアル、健康チェック、感染防止のための手順(プロトコル)作成と徹底を呼びかけ、実践して頂いた。

6月17日には、初のWebexを用いたスポーツ科学部全教員対象の「オンライン情報交換会」(2時間弱)を開催し、「リスクマネジメント」に対して学部一丸となり取り組むことを確認した。当時、在外研修(マレーシア)中の森口教授から海外事情が、また上原教授からは国内事情が共有され、コロナ感染対策への共通理解を深めた。「コロナ」そのものがリスクなのではなく、“対策”の不徹底こそがリスクであることを共有し、組織に影響を与える“不確実性”を最小限にすることを呼び掛けた。各種ガイドラインの作成、実施上の「プロトコル」(手順)の明確化を徹底するように図られた。

6月1日以降に課外活動(運動部活動)が再開された後は、活動届の提出や体調チェックの日常化、部内の安全教育の徹底を促し、陽性者が発生した場合には、情報共有を迅速に行い、学内でのクラスター化を防ぐために第二記念会堂の立ち入り制限や部活動停止など、状況に応じて臨機応変に対応措置を講じてきた。

幸い、2回の運動部内クラスター(5名程度)発生はあったものの、PCR検査の早期実施、陽性者の隔離、濃厚接触者の特定と行動制限を学生課・保健所と連携することで比較的短期間でクラスター化を防止することには成功したと考えられる。

以下に、令和2年度リスクマネジメント委員会の開催日、検討内容の記録を列記する。

○3月9日(令和元年度)

新型コロナウイルス感染症に対する学部の対応について

○3月25日(令和元年度)

新型コロナウイルス感染症に対する学部の対応について

○4月30日

生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ貸入購入対応について

○7月29日

体育寮における新型コロナウイルス陽性者への対応について

○8月1日

運動部学生の新型コロナウイルス陽性者への対応について

○8月10日

運動部学生の新型コロナウイルス陽性者への対応について

○8月15日

「水泳」の補習授業、後期授業について

○8月27日

運動部学生の新型コロナウイルス陽性者への対応について

○1月20日

運動部学生の新型コロナウイルス陽性者への対応について

授業等(卒論発表会・スケート実習)への対応について

入学試験への対応について

(参考)リスクマネジメント委員長が検討に参加

○5月

対面授業実施のガイドライン及び実施要領の作成

○6月17日

対面授業実施に向けた「オンライン情報交換会」の開催

○6月19日

学部長より「対面授業開始の延期」についてスポーツ科学部教職員へ連絡

○6月30日～

「水泳Ⅰ」対面授業実施(実施運営に関するプロトコルの策定)

○7月2日、7月21日、7月29日、8月1日、8月10日、8月27日、12月26日

学部長より「第二記念会堂の使用」についてスポーツ科学部教職員へ連絡

○8月10日

学部長より「キャンプ2」受講学生へ連絡

○12月17日

学部長より「スキー実習の中止」についてスポーツ科学部教職員へ連絡

○1月20日（令和二年）

学部長より「卒論発表会の遠隔実施」「スケート実習の中止」「第二記念会堂の使用」についてスポーツ科学部教職員へ連絡

○3月1日

学部長より「令和3年度第二記念会堂の貸し出し」について方針説明

○その他

「対面授業実施要領」の審査・承認

■ 第二記念会堂 感染防止対策実施内容の取組み紹介
 対面授業の一部実施後も、一部継続して感染防止対策を行った。



玄関の通行制限と常時換気



体調不良者待機場所の設置



学生証提示（カードリーダー）と検温機の設置



手指消毒エリアの設置



通路制限（右側通行）



注意喚起ポスターの掲示



教室内座席使用手順



アンケートアプリでの着座記録システム

15 関連資料一覧

- | |
|--|
| |
|--|
- ※ 福岡大学 大学案内
 - ※ 福岡大学スポーツ科学部 学部案内
 - ※ 福岡大学入試ガイド
 - ※ 福岡大学要覧

 - ※ 福岡大学スポーツ科学研究

 - ※ 教育開発支援機構年報

 - ※ 福岡大学研究推進部年報（2020）

 - ※ 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書（令和2年度）

 - ※ 福岡大学スポーツ科学部卒業論文抄録集（令和2年度）

 - ※ 教育実習報告書
 - ※ 教職事前実習報告書

 - ※ 大学生のスポーツと健康生活（大修館書店）

福岡大学
スポーツ科学部 大学院スポーツ健康科学研究科 年報
令和2年度(2020) 第6号

発行日 令和3年5月発行

編集者 学部年報編集委員会

田口晴康 森口哲史 今村律子

発行者 福岡大学スポーツ科学部

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19-1

TEL : 092-871-6631(代) FAX : 092-865-6029



福岡大學

FUKUOKA UNIVERSITY